

解剖学	歯科衛生学科		1年前期			
	2単位	必修	講義	30時間		
[教員]：村田 直彦						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	解剖学は主に人体の構造、形態を理解し、その機能について探求していく学問で、医学を学ぶ上で最も基礎学問である。歯科衛生士を目指し勉強するうえでも最も基礎になる。人体の構造を知らずして専門分野を探究しようとすればきっと行き詰るに違いない。学ぶにあたり、身体の方角を示す用語、身体の区分、器官系統など基本的な解剖学的ルールを知ること、固有名詞（解剖学名）の持つ意味を充分理解し使いこなすことを目的としている。					
授業方法	講義主体にて行います。小テスト及びレポートが適宜あります。					
到達目標	知識・理解	人体の構造、形態、機能およびその相互関係について理解する。		◎		
	関心・意欲・態度	各自で予習・復習を行い授業に積極的に参加する。		○		
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験・小テスト	85	-	-	-	85
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	85	-	-	15	100
評価の特記事項	試験は授業時の小テスト及び定期試験で行います。受講態度は学修への取り組み状況などを評価します。欠席は減点とし、5回以上欠席の者は試験の受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・生理学』医歯薬出版(4,536円) ISBN:978-4-263-42811-5 『最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,752円) ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	講義用の資料は講義の際に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	解剖学で学ぶこと：解剖学の意義、解剖学とは人体の外形と区分、用語、人体の構成について説明できる。 [準備・課題]人体の外形と区分、用語、構成をまとめる。(4h)					
2	骨格系：概説（骨の機能・構造・形態・成長、体の部位による骨の分類）、頭蓋骨について説明できる。 [準備・課題]頭蓋骨の機能・構造・形態・成長・分類をまとめる。(4h)					
3	骨格系：体幹骨（脊椎、肋骨、胸骨、胸郭）、上肢骨、下肢骨について説明できる。 [準備・課題]体幹骨、上肢骨、下肢骨の機能・構造・形態・成長・分類をまとめる。(4h)					
4	筋系：概説（筋の構造、形による分類、付着部による分類、運動方向による分類）について説明できる。 [準備・課題]全身における筋の種類および機能をまとめる。(4h)					
5	筋系：体の各部位の筋系（頭部・頸部・胸部・腹部・背部・上肢・下肢の筋）について説明できる。 [準備・課題]体の各部位の筋の構造をまとめる。(4h)					
6	1回～5回までの課題を確認する。 筋系：顎顔面部の筋系について説明できる。 [準備・課題]顎顔面部の筋の付着部位、構造、機能をまとめる。(4h)					
7	内臓学：消化器系（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）について説明できる。 [準備・課題]消化器系の構造をまとめる。(4h)					
8	内臓学：呼吸器系（外鼻、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）について説明できる。 [準備・課題]呼吸器系の構造をまとめる。(4h)					
9	内臓学：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱）、生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）について説明できる。 [準備・課題]泌尿器系の構造をまとめる。(4h)					
10	内臓学：内分泌系（内分泌系概要、下垂体、甲状腺、上皮小体、胸腺、性腺、副腎）について説明できる。 [準備・課題]内分泌系の構造をまとめる。(4h)					
11	6回～10回までの課題を確認する。 脈管系：脈管系の概要、血管系（構造、循環）、心臓（位置と形態、構造、弁）について説明できる。 [準備・課題]脈管系の構造をまとめる。(4h)					
12	脈管系：動脈系、静脈系、胎児の循環系について説明できる。 [準備・課題]脈管系の機能、胎児の循環系をまとめる。(4h)					
13	脈管系：リンパ系（リンパ系の概要、リンパ管、リンパ節）、脾臓について説明できる。 [準備・課題]リンパ系の構造をまとめる。(4h)					
14	神経学：神経系の概要・構成、中枢神経系、脳脊髄膜、脳の血管、末梢神経系について説明できる。 [準備・課題]神経系の機能・構造をまとめる。(4h)					
15	11回～14回までの課題を確認する。 感覚器：感覚器の概要、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、外皮について説明できる。 [準備・課題]感覚系の機能・構造をまとめる。(4h)					
時間外での学修	講義の最後に出した課題について次の授業まで調べておいてください。					
受講学生へのメッセージ	講義内容が広範囲であるので、予習・復習を行い、疑問点は積極的に質問してください。質問があるときはオフィスアワー（木曜日5時限目）に村田研究室まで来てください。					

生理学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：中村 浩二・糸尾 尚浩						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	生理学は、ヒトが生きるために必要な生体の機能を知る学問である。歯科衛生士は、顎・口腔・顔面領域のみならず、全身の機能の理解が不可欠であることから、前半では呼吸・血液循環・体温調節・食物の消化吸収・排泄・ホルモンの分泌・生殖など生体のもつ様々な機能（一般生理）について講義する。後半においては、一般生理の基礎的知識を踏まえ、口腔の機能、すなわち咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚・嗅覚などについて講義する。					
授業方法	講義を主体とするが、各単元毎の「確認小テスト」などを授業時間内に行う。					
到達目標	知識・理解	人体の各種機能とメカニズムを適切な生理学用語を用いて説明することができる。 ヒトの健康維持のために、これを構成する組織・器官がどのように統合され、協調されているか理解することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	予習・復習を主体的におこない講義にのぞむことができる。			△	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』医歯薬出版(4,536円)ISBN:978-4-263-42811-5 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,752円)ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	必要な資料は適宜配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(中村)	細胞の基本的生理機構：細胞の構造や細胞内小器官の機能、細胞膜の透過性と電気現象について学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
2(中村)	筋の構造と機能・運動：運動ニューロンを理解した上で、各種反射について学習する。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
3(中村)	消化と吸収：消化器官である胃・小腸・大腸の機能を学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
4(中村)	血液：血液を構成する細胞成分・液性成分とその機能を理解した上で、血液型について学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
5(中村)	心臓の機能：心臓の拍動の調節、心電図について学習する。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
6(中村)	神経系の機能：神経細胞の興奮と伝導の仕組みを考え、神経系の主な伝導路を理解する。 1～5回の課題確認 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
7(中村)	呼吸器の機能：呼吸の意義を考え、肺泡と組織におけるガス交換の仕組みを学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
8(中村)	感覚：外部刺激により引き起こされる感覚のメカニズムを習得する。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
9(中村)	排泄：排泄の意義を理解した上で、尿の生成に関わる腎臓の機能を学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
10(中村)	体温：体熱産生、体熱放散、体温調節のメカニズムについて学習する。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
11(中村)	内分泌、生殖：内分泌腺の種類とそのホルモンの働きを学ぶ。 6～10回の課題確認 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
12(糸尾)	歯と口腔の感覚、味覚と嗅覚：歯と口腔粘膜の感覚、味覚および嗅覚の特性と役割を学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
13(糸尾)	咬合と咀嚼・吸啜：下顎運動に関わる咀嚼筋の働き、顎反射について理解する。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
14(糸尾)	嚥下と嘔吐：摂食・嚥下の5期を理解した上で、嚥下の概要と食塊の動きを学ぶ。 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
15(糸尾)	発声、唾液：発声機構の概要を学習する。また、唾液の性状および機能を学ぶ。 12～14回の課題確認 [準備・課題]学習した内容の復習 (4h)					
時間外での学修	上記の授業内容第1回～15回について内容を確実に学習しましょう。					
受講学生へのメッセージ	毎回の講義の最後に説明する授業内容のポイントについて、復習し理解しましょう。オフィスアワーは、授業終了後の時間に行います。					

口腔解剖学 I		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：村田 直彦						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	口腔解剖学I では、口腔およびこれに密接な関連を持つ口腔周辺の各器官における正常な形態や構造について学ぶ、いわゆる『口腔解剖学』（解剖学の一部に含まれる）について講義する。これから様々な歯科医学を学ぶ歯科衛生科の学生にとって、さらには、実際に臨床に携わる歯科衛生士にとって、基本的に歯や口腔付近の解剖の知識を学んでいく。					
授業方法	講義主体でおこないます。小テスト及びレポート提出は適宜あります。					
到達目標	知識・理解	歯、口腔の構造、形態、機能およびその相互関係について理解する。			◎	
	関心・意欲・態度	各自で予習・復習を行い授業に積極的に参加する。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験・小テスト	85	-	-	-	85
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	85	-	-	15	100
評価の特記事項	試験は授業内での小テスト、定期試験にて評価します。受講態度は学修への取り組み状況などから総合的に評価します。欠席は減点とし、5回以上の欠席で定期試験の受験資格を失います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,752円) ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	参考資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯の概論：歯の定義・種類と名称・記号・歯式・用語・形態を説明する。 [準備・課題]歯の名称・記号・歯式・用語・形態をまとめる。(4h)					
2	永久歯：永久歯の特徴・上下顎の中切歯と側切歯および犬歯の形態学的特徴を説明する。 [準備・課題]切歯・犬歯の形態学的特徴をまとめる。(4h)					
3	永久歯：上下顎の小臼歯および大臼歯の形態学的特徴を説明する。 [準備・課題]小臼歯・大臼歯の形態学的特徴をまとめる。(4h)					
4	乳歯：乳歯の特徴・乳歯と永久歯の比較・乳歯の形態学的特徴を説明する。 [準備・課題]乳歯の形態学的特徴をまとめる。(4h)					
5	1回～4回までの課題を確認する。 永久歯の配列と咬合：上下顎歯の対向関係、異常歯：定義・原因・異常歯の分類を説明する。 [準備・課題]永久歯の配列と咬合、異常歯の特徴をまとめる。(4h)					
6	乳歯の配列と咬合：乳歯の上下顎歯の対向関係、異常歯：定義・原因・異常歯の分類を説明する。 [準備・課題]乳歯の配列と咬合、異常歯の特徴をまとめる。(4h)					
7	口腔とは：機能、口唇と頬、口腔前庭：粘膜・歯肉・ヒダを説明する。 [準備・課題]口唇・頬・口腔前庭部の構造をまとめる。(4h)					
8	固有口腔：口蓋・舌下部、舌：舌の区分・粘膜・舌筋・動脈・静脈・神経を説明する。 [準備・課題]固有口腔の構造をまとめる。(4h)					
9	5回～8回までの課題を確認する。 唾液腺（口腔腺）：大唾液腺・小唾液腺、咽頭：咽頭の区分・咽頭の筋を説明する。 [準備・課題]唾液腺・咽頭部の筋肉の機能・構造をまとめる。(4h)					
10	頭蓋骨：頭蓋の前面・頭蓋の上面・頭蓋の側面・頭蓋の下面・頭蓋の内面を説明する。 [準備・課題]頭蓋骨の構造をまとめる。(4h)					
11	上顎骨：上顎体・上顎骨の突起・歯槽管、口蓋骨：鉛直板・水平板・翼口蓋窩を説明する。 [準備・課題]上顎骨の構造をまとめる。(4h)					
12	9回～11回までの課題を確認する。 下顎骨：下顎体・下顎枝、顎関節：骨部・被覆部・関節円板・靭帯・機能を説明する。 [準備・課題]下顎骨の構造をまとめる。(4h)					
13	表情筋：口裂周囲筋、舌骨上筋：群の構成と機能、咀嚼筋：構成と機能を説明する。 [準備・課題]表情筋・咀嚼筋・舌骨上筋群の機能と構造をまとめる。(4h)					
14	口腔付近に分布する動脈・静脈：外頸動脈・内頸静脈、頭頸部のリンパ系：下顎底部を説明する。 [準備・課題]顎・顔面領域の動・静脈をまとめる。(4h)					
15	12回～14回までの課題を確認する。 神経：脳神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、舌下神経）・脊髄神経・自律神経を説明する。 [準備・課題]顎・顔面領域の神経系をまとめる。(4h)					
時間外での学修	講義の最後に出した課題について次の授業まで調べておいてください。					
受講学生へのメッセージ	講義内容が広範囲であるので、予習・復習を行い、疑問点は積極的に質問してください。質問があるときはオフィスアワー（木曜日5時限目）に村田研究室まで来てください。					

口腔解剖学Ⅱ		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
[教員]：海原 康孝・村田 宜彦						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	口腔解剖学Ⅱは、前半に『組織発生学』の講義を、後半には『歯型彫刻実習』を行う。『組織発生学』では歯や口腔を形成する諸臓器における組織の微細構造について、人体が成熟するが過程について学ぶ。『歯型彫刻実習』では歯の立体像の特徴と解剖学的構造を学ぶ。					
授業方法	『組織発生学』の講義では、パワーポイント等を使用した質疑応答形式の講義を、『歯型彫刻実習』は2名の教員が巡回形式で個々に合わせた指導を行っていく。尚、彫刻の制作物は実習終了時、毎回提出とする。					
到達目標	知識・理解	①受精から胎児の成長と発育、顔面と口腔などヒトの成り立ち、ヒトの組織の種類、細胞的構造、臓器におけるそれぞれの役割などについて、基本的な知識を習得できる。 ②歯の硬組織や歯髄、歯周組織の構造や各部の名称、内容を理解し、それらを歯科疾患の成り立ち、進行状況、処置方法と結びつけ、学修に取り組むことができる。			◎	
	技能	歯のスケッチと彫刻実習で、個々の歯の形態の特徴、各部の名称を理解し、歯科疾患へと結びつけ学修に取り組むことができる。			◎	
	関心・意欲・態度	歯科疾患に結びつけ学修に取り組むことができる。			△	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	-	-	-	60
	歯型彫刻実習, 彫刻 (2作品)	-	-	30	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	-	30	10	100
評価の特記事項	全授業の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・生理学』医歯薬出版(4,536円) ISBN:978-4-263-42811-5 『最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』医歯薬出版(4,752円) ISBN:978-4-263-42812-2					
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	【前半】『組織発生学』講義 担当 海原 康孝 歯および歯周組織の構造と機能(1) (エナメル質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [準備・課題]エナメル質の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
2	歯および歯周組織の構造と機能(2) (象牙質、歯髄複合体やセメント質の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [準備・課題]象牙質、歯髄複合体、セメント質の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
3	歯および歯周組織の構造と機能(3) (歯根膜や歯槽骨の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [準備・課題]歯根膜、歯槽骨の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
4	歯および歯周組織の構造と機能(4) (歯肉や歯周組織、口腔粘膜の概要・構造、存在する構造物などについて学ぶ。) [準備・課題]歯肉、歯周組織、口腔粘膜の構造と機能を復習し、まとめる。(1h)					
5	細胞と組織細胞 (細胞の構造と機能、細胞の一生、組織の種類とその構成などについて学ぶ。) [準備・課題]細胞と組織の構造および機能を復習し、まとめる。(1h)					
6	発生について (精子・卵子の発生、受精・着床、胚葉形成、胎児の成長・発育などについて学ぶ。) [準備・課題]ヒトの発生・成長・発育について復習し、まとめる。(1h)					
7	顔面と口腔の発生 (鰓弓、顔面と口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成などについて学ぶ。) [準備・課題]鰓弓および顔面、口唇、口蓋と鼻腔、舌、腺の形成について復習し、まとめる。(1h)					
8	歯と歯周組織の発生 (先行歯、代生歯および加生歯の発生などについて学ぶ。) [準備・課題]先行歯、代生歯、加生歯について復習し、まとめる。(1h)					
9	【後半】『歯型彫刻実習』実習(実習室G201) 担当 村田 宜彦 海原 康孝 上顎右側中切歯と下顎右側第一大臼歯の模型を観察しながらスケッチする展開図を作成し、歯の特徴の理解を深める。 [準備・課題]展開図で歯の形態を把握し、歯の特徴をまとめる。(1h)					
10	上顎右側中切歯の模型を用い、各歯面から歯の形態・特徴を把握する。彫刻により器具の扱いを習得する。 [準備・課題]上顎右側中切歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)					
11	上顎右側中切歯の形態的特徴を把握し、彫刻を行う。 [準備・課題]上顎右側中切歯の彫刻を行う。(1h)					
12	彫刻を完成し、細部にわたり上顎右側中切歯の形態について学ぶ。9~11の課題について確認する。 [準備・課題]上顎右側中切歯の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)					
13	下顎右側第一大臼歯の模型を用い、各歯面から観察した歯の形態・特徴を把握する。石膏棒を彫刻することで器具の取り扱いを習得する。 [準備・課題]下顎右側第一大臼歯の形態・特徴についてまとめ、復習する。(1h)					
14	下顎右側第一大臼歯の彫刻を仕上げに向け、細部に至る形態的特徴について学ぶ。 [準備・課題]下顎右側第一大臼歯の彫刻を行う。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	細かい作業により彫刻を完成し、下顎右側第一大臼歯の形態の細部にわたる特徴について学ぶ。9, 13, 14の課題について確認する。 [準備・課題]下顎右側第一大臼歯の形態の特徴についてまとめ、彫刻を仕上げる。(1h)
時間外での学修	講義の内容をよく復習し、理解するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。
受講学生へのメッセージ	『組織発生学』は肉眼視できない部分を学ぶ複雑さがあるので、多くのイラスト、写真の観察が大切です。また、テキストの各章の初めにある「到達目標」を参考にしてください。 オフィスアワーは毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。研究室（岩田G206、村田G205 : G号館2F）に来て下さい。

病理学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：石川 隆義						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	病理学は病気の本態（原因・成り立ち・経過および結果）を学ぶ科目であり、基礎医学として位置付けられているが、臨床（予防や治療）と密接に結びつく重要な科目である。先ず病理学総論では、全身の病変を対象として、病気の成り立ちを中心に講義をし、後半では歯科衛生士の専門領域である口腔の病変についてより詳しく解説する。 本授業では、全身や特に口腔の病気の成り立ちと原因の理解を目指し、臨床領域の授業科目が理解できるための基礎的知識を身につける授業とする。					
授業方法	前半では病理学総論により病気の本態について学び、後半の口腔病理学でう蝕と歯周疾患の病理学的背景を深く理解し、口腔顔面領域に発生する疾患の基本的病理学的知識を修得していく授業展開とする。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気の原因について述べるができる。</li> <li>・ 退行性病変、進行性病変、循環障害について説明ができる。</li> <li>・ 炎症性病変や免疫反応、遺伝性疾患について説明ができる。</li> <li>・ 歯の発育異常や損傷、付着物について説明ができる。</li> <li>・ 歯牙硬組織、歯髄、歯周組織の病変について説明ができる。</li> <li>・ 口腔の発育異常、粘膜疾患、嚢胞や腫瘍について説明ができる。</li> <li>・ 顎骨の病変、唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変、全身疾患と口腔病変について説明ができる。</li> </ul>			◎	
	関心・意欲・態度	病理学全般における疑問点を、自己学修によって解決ができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で行います。受講態度は学修への取組状況によって評価します。全授業の1/3以上を欠席した者は受験資格がありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』医歯薬出版(4, 104円) ISBN:978-4-263-42813-9					
参考書・教材	二階宏昌/他編『歯学生のための病理学 第2版 一般病理編』医歯薬出版 二階宏昌/他編『歯学生のための病理学 第2版 口腔病理編』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	病理学とは、病因論：先ず病理学序論を述べ、細胞と組織について解説し、病気の原因について内因と外因について分けて講義を行なう。 [準備・課題]学修内容を予習し、病気の原因についてまとめる。(4h)					
2	遺伝性疾患、奇形：染色体異常と遺伝子病及び先天異常について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、遺伝性疾患についてまとめる。(4h)					
3	循環障害：循環血液量の障害について述べ、特に閉塞性循環障害の血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、梗塞等について詳述する。 [準備・課題]学修内容を予習し、循環障害についてまとめる。(4h)					
4	代謝障害：退行性病変の変性・萎縮・壊死、また代謝病や内分泌障害について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、退行性病変について分類整理してまとめる。(4h)					
5	増殖と修復：病因に対して細胞や組織が積極的に反応する進行性病変について解説する。特に、肉芽組織、創傷治癒、器質化について詳述する。 [準備・課題]学修内容を予習し、進行性病変について分類整理してまとめる。(4h)					
6	炎症、感染症：炎症の症状、病変、原因、種類、経過と転帰について解説した後、病原微生物と炎症反応にも言及する。 [準備・課題]学修内容を予習し、急性炎症、慢性炎症に分類しまとめる。(4h)					
7	免疫、免疫異常：免疫反応、アレルギー、自己免疫疾患、移植免疫等について述べる。 1-7の一般病理の課題の確認のため、レポートを完成させ提出させる。 [準備・課題]学修内容を予習し、特にアレルギー（I-IV型）と自己免疫疾患の種類についてまとめる。(4h)					
8	口腔病理学とは、歯の発育異常：口腔病理学の概説を行なった後、歯の大きさ、形態、数、構造、萌出、位置、咬合の異常について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯の形成時期と発育異常との関連についてまとめる。(4h)					
9	歯の損傷と付着物：歯の機械的および化学的損傷、歯の付着物・沈着物について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、特に咬耗症、摩耗症、外傷についてまとめる。(4h)					
10	う蝕：う蝕の病因、誘因について解説した後、エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕の病理について詳述する。 [準備・課題]学修内容を予習し、特にう蝕の病因と分類についてまとめる。(4h)					
11	象牙質・歯髄複合体および根尖部歯周組織の病変：歯髄炎の臨床病理所見や象牙質・歯髄複合体の創傷治癒、根尖性歯周炎について解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯髄炎と根尖性歯周炎をそれぞれ急性期・慢性期についてまとめる。(4h)					
12	辺縁部歯周組織の病変、歯科治療に伴う治癒の病理：辺縁性歯周炎の原因や病理所見、歯周治療の病理等について解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯周炎と歯肉炎の病因と発生機序についてまとめる。(4h)					
13	口腔粘膜疾患：口腔粘膜に生じる病変について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、口腔粘膜病変について分類・整理してまとめる。(4h)					
14	口腔癌、口腔の嚢胞、口腔の腫瘍：口腔に発生する癌の病因や病理組織像、歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞、歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、口腔に発生する腫瘍と嚢胞についてまとめる。(4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	顎骨の病変、唾液腺疾患、口腔の奇形、加齢に伴う口腔病変、全身疾患と口腔病変について述べる。 8-15の口腔病理の課題の確認のため、レポートを提出させる。 [準備・課題]学修内容を予習し、特に全身の病気と口腔に表れる病変についてまとめる。(4h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室 (G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。
受講学生へのメッセージ	病理学は臨床に直接的に関わりのある総合的な基礎科目である。従って、患者に直接医療行為を行う歯科衛生士にとり大変重要な科目と認識し予習・復習をして授業に臨む事。 オフィスアワーはG204で、毎週木曜日の5時限目16:20から17:30です。

微生物学		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：朝井 康行						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	う蝕と歯周病をはじめ口腔疾患の多くは微生物によって引き起こされる感染症であり、その発症や進行には生体の防御機構が深く関与している。また、実際に医療現場に従事する歯科衛生士にとって院内感染に対する標準予防策は不可欠なものである。これら基礎的知識を修得し、今後の臨床実地に繋げることを目標とする。					
授業方法	講義を主体とする。毎回、講義内容に関する小テストを行う。					
到達目標	知識・理解	微生物の種類と特性について理解する。 感染と生体の防御機構について理解する。 口腔感染症を起こす微生物の特徴について理解する。 滅菌と消毒について理解する。			◎	
	関心・意欲・態度	医療人として自己管理のもと、講義に積極的に参加することができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	85	-	-	-	85
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	85	-	-	15	100
評価の特記事項	全講義回数の1/3以上を欠席した学生は受験資格を失う。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学』医歯薬出版(3,240円) ISBN:978-4-263-42814-6					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	疾病と微生物(感染と感染症)、微生物の分類について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
2	細菌の性状と病原性について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
3	主な病原性細菌(グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性球菌)について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
4	主な病原性細菌(グラム陰性桿菌)・マイコプラズマ・スピロヘータ・リケッチア・クラミジアについて学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
5	ウイルスの性状について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
6	ウイルス感染症について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
7	その他の微生物(真菌・原虫)について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
8	宿主防御機構について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
9	免疫機構について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
10	液性免疫・細胞性免疫について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
11	アレルギーについて学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
12	口腔微生物学(口腔細菌叢とデンタルプラーク形成機序)について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
13	口腔感染症1(う蝕と歯内感染症)について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
14	口腔感染症2(歯周病とその他の口腔感染症)について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・学修した内容の復習(4h)					
15	院内感染対策と滅菌・消毒について学ぶ。 [準備・課題] 講義範囲をテキストで予習・これまで実施した小テストを用いた総合的なまとめ(6h)					
時間外での学修	[準備・課題]として示した内容をテキストや配布プリントを用いて行ってください。確認のため、毎時間小テストを行います。					
受講学生へのメッセージ	講義の中でその日の内容を理解することを目標にします。疑問点については積極的に質問して解決してください。オフィスアワーは授業終了後、教室で行います。					



薬理学		歯科衛生学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：坂井 隆之						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	薬物は疾病の原因を取り除いたり、症状を和らげることを目的に使用される。一方で、不適切な使用により副作用や中毒等の有害事象を引き起こすことがある。医療スタッフである歯科衛生士には、薬物の作用およびそのメカニズム、体内での薬物の振る舞い、副作用など有害事象を理解しうえて法的規制を含む薬物の適正な取り扱いが求められる。授業では、まず総論として、薬物の作用機序の分類、体内での振る舞い、有害事象、薬物管理、製剤の扱い、服薬指導等について学習する。さらに各論では、臨床に応用されている薬物について疾病に対する作用機序、分類、副作用等について学ぶ。					
授業方法	教科書の内容を中心に最新の内容を加えながら講義を行う。 講義の一環として映像素材の視聴を行う。					
到達目標	知識・理解	薬物の作用機序および副作用、相互作用について理解し説明することができる。 薬物の法的規制、取り扱い方法について理解し説明することができる。 製剤の服薬についての基本的事項を説明することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	自主的な予習・復習ができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	授業回数の1/3以上を欠席した場合は定期試験の受験資格がありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 薬理学 第2版』医歯薬出版(3,456円) ISBN:978-4-263-42860-3					
参考書・教材	授業ごとに必要な資料を配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	総論1 薬物の定義と分類：療法による薬物の分類、および法律による薬物の分類を理解し、薬物の保存方法を考える。 [準備・課題] 毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬の表示と保管方法についてまとめる。(4h)					
2	総論2 薬物の作用：薬理作用の基本形式を知り、そのメカニズムを把握する。薬物の用量と薬理作用の関係についても考える。 [準備・課題] 「薬物の用量と作用」における専門用語の意味を調べる。(4h)					
3	総論3 生体における薬物の働き(1)：薬物動態および投与方法との関係について学ぶ。 [準備・課題] 薬物の吸収、代謝、排泄についてまとめる。(4h)					
4	総論4 生体における薬物の働き(2)：薬物の副作用：薬物の反復使用・併用の効果を学び、薬効に影響する要因および薬物の副作用を学ぶ。 [準備・課題] 口腔領域に発現する副作用についてまとめる。(4h)					
5	各論1 中枢神経系と薬(1)：中枢神経系に作用する薬物の特徴を理解し、代表的薬物について学ぶ。 [準備・課題] 中枢神経系についてまとめる。(4h)					
6	各論2 中枢神経系と薬(2)：中枢神経系に作用する代表的薬物として全身麻酔薬、向精神薬、麻薬性鎮痛薬、中枢神経興奮薬について学ぶ。 [準備・課題] 全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬についてまとめる。(4h)					
7	各論3 末梢神経系と薬：末梢神経系の構造と機能について復習し、自律神経作用薬/拮抗薬、局所麻酔薬について学ぶ。 [準備・課題] 自律神経の構造と機能、局所麻酔薬の作用についてまとめる。(4h)					
8	各論4 循環・呼吸器系と薬：循環系に作用する薬物と呼吸器系に作用する薬物について学ぶ。 1～7回の課題確認のため小テストをする。 [準備・課題] 降圧薬、狭心症治療薬についてまとめる。(4h)					
9	各論5 血液と薬：血液凝固のメカニズムを復習し、止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について学ぶ。 [準備・課題] 血液凝固のメカニズムと抗血栓薬、止血薬の作用点についてまとめる。(4h)					
10	各論6 炎症と薬：炎症について復習し、抗炎症薬の分類・作用点・副作用について学ぶ。 [準備・課題] 抗炎症薬、鎮痛薬、解熱鎮痛薬についてまとめる。(4h)					
11	各論7 ビタミン・ホルモンと薬：主なビタミンの作用と欠乏症、ホルモンの作用について学ぶ。 [準備・課題] ビタミンの作用と欠乏症、骨粗鬆症の発症メカニズムについてまとめる。(4h)					
12	各論8 感染症と薬(1)：感染について復習し、抗感染症薬の作用機序について学び、分類・代表的薬物・副作用を理解する。 [準備・課題] 感染症に関わる代表的微生物についてまとめる。(4h)					
13	各論9 感染症と薬(2)：消毒薬の分類と作用機序について学ぶ。 [準備・課題] MRSA、芽胞、HBV、HIVに効果のある消毒薬についてまとめる。(4h)					
14	各論10 悪性腫瘍と薬：悪性腫瘍の生物学的特徴について復習し、抗悪性腫瘍薬の作用機序・分類・副作用について知る。 [準備・課題] 抗悪性腫瘍薬の副作用についてまとめる。(4h)					
15	各論11 免疫と薬：免疫系に作用する薬物の作用機序・分類・副作用について知る。 8～14回の課題確認のため小テストをする。 [準備・課題] 免疫の仕組み、アレルギーについてまとめる。(4h)					
時間外での学修	各回の授業内容について調べまとめておく。身の回りにある薬物、製剤について作用機序、副作用、相互作用などを調べる。					
受講学生へのメッセージ	学習効果を高めるために、解剖学、生理学、微生物学、病理学で習得した基本的知識を整理しておくことが必要である。また身の回りにある薬物について興味を持ち作用機序、副作用、相互作用等を調べる姿勢が望まれる。オフィスアワーは、教室にて授業終了後です。					

栄養生化学		歯科衛生学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
[教員]：久本 たき子・村田 宜彦							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	「栄養生化学」とよばれる領域が栄養学において主要な位置を占める傾向にある。この科目は、食事指導をするうえで必要不可欠であり、基礎知識を十分に理解することが重要である。将来歯科保健指導が実践できるように基礎的な用語を確実に修得することがねらいである。						
授業方法	主に講義中心の授業になりますが、より理解しやすいように演習も取り入れた形式で行います。						
到達目標	知識・理解	1. 歯及び口腔組織の構成成分、機能について理解する。 2. 骨、歯の石灰化などについて理解する。 3. 唾液の生化学的特性を理解する。 4. 生体の生命活動を分子レベルにて理解する。 5. 日本人の食事摂取基準を説明できる。 6. 五大栄養素の基礎知識について理解する。			◎		
	関心・意欲・態度	主体的に予習・復習を行い、毎回の授業に積極的に参加する。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	-	-	-	80
	小テスト		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		85	-	-	15	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位は与えません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝』医歯薬出版株式会社(3,780円) ISBN:978-4-263-42819-1 『七訂食品成分表2018』女子栄養大学出版部(1,512円) ISBN:978-4-7895-1018-9						
参考書・教材	講義資料は、プリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(久本)	栄養学(1) 栄養の基礎知識 栄養素の消化吸収について解説する。 [準備・課題] 消化作用の種類や仕組み、栄養素の役割をまとめる。(4h)						
2(久本)	栄養学(2) 基礎代謝と日本人の食事摂取基準について解説し、消費エネルギー量を求める演習を行う。 [準備・課題] 推定エネルギー必要量と脂肪エネルギー比率についてまとめる。(4h)						
3(久本)	栄養学(3) 糖質・タンパク質の栄養的意味について解説する。 [準備・課題] 糖質とタンパク質の種類についてまとめる。(4h)						
4(久本)	1回～3回までの課題を確認する。 栄養学(4) 脂質・ビタミンの栄養的意味について解説する。 [準備・課題] 脂質とビタミンの種類についてまとめる。(4h)						
5(久本)	栄養学(5) ミネラルの栄養的意味について解説する。 [準備・課題] ミネラルの種類についてまとめる。(4h)						
6(久本)	栄養学(6) 水・食物繊維の栄養的意味について解説する。 [準備・課題] 水と食物繊維の働きについてまとめる。(4h)						
7(久本)	4回～7回までの課題を確認する。 栄養学(7) 栄養学(1)～(6)までのまとめを行う。 [準備・課題] 基礎代謝と日本人の食事摂取基準および五大栄養素について、復習する。(4h)						
8(久本)	これまでの復習と学修到達度の確認とチェックを行う。 [準備・課題] 学修到達度を確認し自己学修を振り返り、知識不足を復習する。(4h)						
9(村田)	生命活動の概要(1) 生命の基本である細胞の構造や細胞小器官の働きを理解する。 [準備・課題] 細胞の構造や細胞小器官の働きをまとめる。(4h)						
10(村田)	生命活動の概要(2) 細胞内で起こる代謝について理解する。 [準備・課題] 細胞内で起こる代謝をまとめる。(4h)						
11(村田)	生命活動の概要(3) 生体における恒常性の維持について理解する。 [準備・課題] 生体における恒常性の維持をまとめる。(4h)						
12(村田)	9回～11回までの課題を確認する。 歯・口の生化学(1) 歯と歯周組織を生化学の観点から説明する。 [準備・課題] 歯の無機成分と有機成分についてまとめる。(4h)						
13(村田)	歯・口の生化学(2) 歯牙・硬組織を生化学の観点から説明する。(石灰化、再石灰化、骨の生成、吸収) [準備・課題] 石灰化のしくみについてまとめる。(4h)						
14(村田)	歯・口の生化学(3) 唾液の組成と作用を知り口腔の外部環境を形成している唾液の重要性について説明する。 [準備・課題] 唾液の組成と作用についてまとめる。(4h)						
15(村田)	12回～14回までの課題を確認する。 歯と口の生化学(4) う蝕・歯周病に対する生体防御機構を自然免疫系と獲得免疫系から講義する。 [準備・課題] プラークによる歯周疾患発症機構についてまとめる。(4h)						
時間外での学修	口腔生化学(村田)：講義の最後に出す課題について、次の講義まで調べてくること。 栄養学(久本)：毎回小テストを実施しますので、復習をしっかりと行ってください。						
受講学生へのメッセージ	講義中心の科目ですが、演習もあるので積極的な態度で臨みましょう。第8週は、試験になるため体調を整え臨んでください。 オフィスアワーは、木曜日5時限(村田)：研究室(G205:G号館2F)、火曜日5時限(久本)：研究室(G304:G号館3F)です。						

口腔衛生学 I		歯科衛生学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
[教員]：塚本 敬子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	口腔衛生とは、歯や口腔の「健康」の保持増進をねらいとした、個人や社会に応用するための手段や方法を学ぶ学問であります。この教科では、歯や口腔の基礎的な知識を理解すること。口腔疾患の発生・要因を学ぶこと。そして歯科衛生士として口腔の健康状態が保てるような予防方法を修得することを目標とします。					
授業方法	パワーポイントをを用いた講義を中心に、臨床写真や図などを利用して行います。					
到達目標	知識・理解	歯や口腔の基礎的な知識を理解し、口腔の疾病を予防し、その健康を保持増進させるための予防手段を身につけることができる			◎	
	思考・判断・表現	口腔の健康を維持増進するためのリスクを論理的に考え判断し、適切に説明ができる。			△	
	関心・意欲・態度	歯や口腔の予防について関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学修に取り組む事ができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	10	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項	試験は、授業内及び定期テストで行います。 受講態度は、学業への取組状況などから総合的に評価します。 講義実施時間の1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版(6,048円) ISBN:978-4-263-42838-2					
参考書・教材	各章ごとに資料配布します。ファイリングできるようにしておいてください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	口腔衛生学概論 [準備・課題]口腔の名称についてまとめる。(1h)					
2	II-1章 総論 [準備・課題]復習し、歯・口腔の健康と予防についてまとめる。(1h)					
3	II-1章 総論 2-歯・口腔の健康 1.歯・口腔の構造について学ぶ② [準備・課題]復習し、歯・口腔の構造についてまとめる。(1h)					
4	II-1章 総論 [準備・課題]復習し、歯・口腔の機能についてまとめる。(1h)					
5	II-1章 総論 [準備・課題]復習し、歯・口腔の付着物についてまとめる。(1h)					
6	II-4章 齲蝕の予防 [準備・課題]復習し、齲蝕の発生メカニズムについてまとめる。(1h)					
7	II-4章 齲蝕の予防 [準備・課題]復習し、齲蝕の発生要因についてまとめる。(1h)					
8	II-4章 齲蝕の予防 [準備・課題]復習し、齲蝕活動性や齲蝕予防についてまとめる。(1h)					
9	II-2章 口腔清掃 1~8回の課題の確認のため小テストを行います。 [準備・課題]1~8回で学んだ内容の復習と口腔清掃の意義、口腔清掃法についてまとめる。(2h)					
10	II-2章 口腔清掃 [準備・課題]復習し、人工的清掃法の分類と用具、不適切な口腔清掃による為害作用についてまとめる。(1h)					
11	II-2章 口腔清掃 [準備・課題]復習し、歯磨剤と洗口剤についてまとめる。(1h)					
12	II-6章 歯周疾患の予防 [準備・課題]復習し、歯周疾患の発生機序や分類についてまとめる。(1h)					
13	II-6章 歯周疾患の予防 [準備・課題]復習し、歯周疾患の予防手段と処置についてまとめる。(1h)					
14	II-6章 歯周疾患の予防 課題プリントにて確認する。 [準備・課題]復習し、口腔清掃状態を数値化して評価する方法をまとめる。(1h)					
15	まとめ [準備・課題]学修した内容を復習(2h)					
時間外での学修	薬局に行った際、どのような口腔ケア用品があるか調べてみましょう。					
受講学生へのメッセージ	授業内容が大変広範囲で多岐にわたり、とらえどころが難しいと感じると思いますが、要点は授業で指摘します。 オフィスアワーは、授業終了後の休み時間に教室で行います。					

口腔衛生学Ⅱ		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
[教員]：塚本 敬子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	歯科における歯科衛生士の重要な役割であるう蝕予防法のひとつであるフッ化物の応用について学んでいきます。これらはフッ化物という限定的な範囲ですが、歯科衛生士として常識的に理解する必要があります。また、臨床実習の基礎知識として必要な母子保健と学校保健についても理解を深めてもらい、この得られた知識を活用して歯科衛生士としての業務遂行にさらなるレベルアップを目指す事を目的とする。					
授業方法	パワーポイントを用いた講義を中心に、臨床写真や図などを利用して行う。					
到達目標	知識・理解	う蝕予防方法のフッ化物について基本的な知識を修得し、応用ができる。公衆衛生活動の歯科保健についての理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	人々の健康を保持増進するために必要な関係を論理的に考え判断し、適切に説明ができる。			△	
	関心・意欲・態度	歯と口腔の予防についての基礎的な知識に加え、健康を支援していく保健活動について関心を持ち積極的に学修に取り組む事ができる			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	10	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項	試験は、定期テストで行います。 受講態度は、学業への取組状況などから総合的に評価します。 講義実施時間の1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版(6,048円) ISBN:978-4-263-42838-2 前期「口腔衛生学Ⅰ」で購入済み。					
参考書・教材	各章ごとに資料を配布します。 資料枚数が多いのできちんとファイリングできる用意をしておいてください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	前期授業の復習 「口腔衛生学Ⅰ」後半の課題をプリントで確認する。 [準備・課題]前期で学習した内容をまとめる。(2h)					
2	Ⅱ-5章 フッ化物の一般性状 [準備・課題]復習し、フッ化物についてまとめる。(1h)。					
3	Ⅱ-5章 フッ化物の応用と作用機序 [準備・課題]復習し、フッ化物の摂取方法をまとめる。(1h)					
4	Ⅱ-5章 フッ化物の集団応用と効果 [準備・課題]復習し、フッ化物を摂取した場合の代謝についてまとめる。(1h)					
5	Ⅱ-5章 フッ化物の安全性 2~4回の課題をプリントで確認する。 [準備・課題]復習し、使用するフッ素の安全量についてまとめる。(1h)					
6	Ⅱ-5章 フッ化物の急性・慢性中毒 [準備・課題]復習し、毒性についてまとめる。(1h)					
7	Ⅱ-5章 フッ化ジアミン銀溶液について [準備・課題]復習し、フッ化ジアミン銀溶液の特徴についてまとめる。(1h)					
8	Ⅱ-5章 小窩裂溝填塞法について 6~8回の課題をプリントで確認する。 [準備・課題] 復習し、小窩裂溝填塞の方法、特徴についてまとめる。(1h)					
9	Ⅲ-2章 母子歯科保健 [準備・課題]復習し、1歳6ヶ月、3歳児歯科健診についてまとめる。(1h)					
10	Ⅱ-3章 学校歯科保健 [準備・課題]復習し、学校で行う歯科健康診査についてまとめる。(1h)					
11	Ⅱ-8章 ライフステージごとの口腔保健管理 [準備・課題]復習し、母子・小児期の口腔保健の管理についてまとめる。(1h)					
12	Ⅱ-8章 ライフステージごとの口腔保健管理 9~12回の課題をプリントで確認する。 [準備・課題]復習し、成人・老年期の口腔保健の管理についてまとめる。(1h)					
13	Ⅱ-7章 その他の疾患・異常の予防 [準備・課題]復習し、う蝕や歯周疾患以外の口腔疾患についてまとめる。(1h)					
14	Ⅱ-3章 歯科疾患の疫学 [準備・課題]復習し、う蝕、歯周疾患の疫学、歯科疾患実態調査についてまとめる。(1h)					
15	まとめ 13~14回の課題を確認する。 [準備・課題]学修した内容を復習(2h)					
時間外での学修	新聞などで上記項目に関連する記事に関心をもって読んでください。					
受講学生へのメッセージ	授業内容が大変広範囲で多岐にわたり、とらえどころの選択が難しいと感じると思いますが、要点は授業で指摘します。 オフィスアワーは、授業終了後の休み時間に教室で行います。					

歯科衛生士概論		歯科衛生学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
[教員]：水嶋 広美							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	歯科医療に対する社会のニーズが高まり、口腔疾患の予防だけでなく、食べる支援者として歯科衛生士の活躍する場や業務内容の拡大にはめざましいものがあります。これから歯科衛生士を目指すため「歯科衛生」とは何か、歯科衛生士の役割および使命を理解し、歴史、医療人として心構えなどについて学習します。						
授業方法	授業は、テキストや資料を用いて講義する。必要な項目においてのまとめとして課題レポートを実施する。						
到達目標	知識・理解	1. 歯科衛生の歴史（変遷）を理解する。 2. 歯科衛生を担う職種として歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。 3. 歯科衛生業務を展開する理論「歯科衛生科過程」の要素について概説し、各場面で必要になる知識・技術を理解する。 4. 医療人としての職業倫理を説明する。 5. 医療安全における歯科衛生士の責務を説明する。 6. 期待される歯科衛生士像を理解する。			◎		
	関心・意欲・態度	1. 将来の歯科衛生士を目指して、授業に積極的に参加し、自ら関しと意欲をもって取り組む。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	-	-	-	70
	レポート内容		10	-	-	-	10
	レポート提出状況		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		80	-	-	20	100	
評価の特記事項	筆記試験、受講態度、課題の内容、提出状況などから総合的に評価します。課題は期限までに提出したもののみ、筆記試験時に持ち込むことができます。欠席は減点し、3分の1以上の欠席の場合、単位は与えません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論』医歯薬出版株式会社(2,916円) ISBN:978-4-263-42810-8 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版株式会社(6,048円) ISBN:978-4-263-42838-2 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版株式会社(6,480円) ISBN:978-4-263-42840-5						
参考書・教材	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版』医歯薬出版 その他必要な資料は配布します。						
実施回	内容 授業内容・目標						
1	歯科衛生とは 歯科衛生士が学ぶ「歯科衛生学」とは何か、健康とのかかわりについてを学ぶ。また、歯科衛生士の養成状況、就業状況を知る。 [準備・課題]健康について調査する(3h)						
2	歯科保健指導とはⅠ 口腔の健康について自分の口腔の健康状態を理解する。 「今後の効果的なブラークコントロールのための」基礎知識と効果的な予防製品の使い方を学ぶ [準備・課題]自分の口腔状態の観察レポートをまとめる(3h~5h)						
3	歯科保健指導とはⅡ(2回・3回は、続けて講義) 口腔の健康について自分の口腔の健康状態を理解する。 「今後の効果的なブラークコントロールのための」基礎知識と効果的な予防製品の使い方を学ぶ [準備・課題]自分の口腔状態の観察レポートをまとめる(3h~5h)						
4	歯科衛生士の歴史(変遷) 日本の歯科衛生士の歴史を学び、活動の場の変遷を知る。 [準備・課題]健康について引き続き調査しまとめる(3h~5h)						
5	法律と歯科衛生士業務(1回~4回の課題の確認) 歯科衛生業務の専門性や歯科衛生士法などについて学ぶ。 [準備・課題]歯科衛生士法についてまとめる(3h~5h)						
6	歯科衛生活動のための理論Ⅰ 健康の概念、予防の概念について健康増進に関連する戦略の概要を学ぶ。 [準備・課題]必要な用語を理解する(3h~5h)						
7	歯科衛生活動のための理論Ⅱ 口腔の2大疾患のリスクと予防法について知る。歯科衛生士の実際の活動場面の例を紹介する。 [準備・課題]学習内容を復習し、歯科衛生も考え方についてまとめる(3h~5h)						
8	歯科衛生士の業務 予防概念を理化学化し、歯科衛生の考え方の基本を学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習し、まとめる(3h~5h)						
9	歯科衛生士の業務Ⅱ 歯科衛生士の社会活動の領域と組織活動の内容を学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習する(3h~5h)						
10	歯科衛生士の業務Ⅳ 歯科衛生業務における、歯科衛生過程を活用する意義を理解する。 [準備・課題]歯科衛生過程の要素をまとめる(3h~5h)						
11	歯科衛生士の活動の場の理解Ⅰ(5回~10回の課題の確認) 歯科衛生過程の内容を学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	歯科衛生士の活動の場の理解Ⅱ 歯科衛生士の活動の領域と就業状況、保険・医療・福祉のかかわりについて学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)
13	医療安全管理 インシデント(ヒヤリハット)、アクシデントや感染予防対策について学ぶ。 [準備・課題]学習内容を復習し、用語についてまとめる(3h~5h)
14	歯科衛生士と医療倫理 倫理の必要性、患者の権利、専門職の倫理を学ぶ。 [準備・課題]学習内容で出てくる用語についてまとめる(3h~5h)
15	歯科衛生学まとめ(総合的まとめ) 歯科衛生士の現状と社会におけるニーズと今後について学ぶ。 [準備・課題]自分が目指す歯科衛生士について考える(3h~5h)
時間外での学修	毎回の学習やレポート作成に必要な情報を得るため、複数のテキストや図書館を積極的に利用して下さい。
受講学生へのメッセージ	歯科衛生士を目指すものとして、知識だけではなく態度が大切です。欠席せず、積極的に学ぶ姿勢を身につけてください。 オフィスアワーは研究室(G306:G号館3F)で毎週木曜日の16:20から17:00です。

歯科臨床概論		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
[教員]：海原 康孝							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	臨床科目を学ぶにあたり、歯科医療を行う側に立つ者として歯科医療全般についての概要を知るとともに、歯科衛生士としての役割を自覚することを目標とする。						
授業方法	『歯科臨床概論』では講義を主体とする。適宜配布資料や実物も使用する。						
到達目標	知識・理解	歯科疾患における成り立ちと症状、治療内容、処置の概要についての基本的な知識を理解できる。 医の倫理をわきまえた上で診療や診療の補助にあたる必要性が理解できる。			◎		
	関心・意欲・態度	高い関心を持ち、疑問点を積極的に学修に取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		80	-	-	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項	全授業の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。						
テキスト	『歯科衛生士のための歯科臨床概論』医歯薬出版(2,592円) ISBN:978-4-263-42217-5						
参考書・教材	適宜紹介する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科診療と歯科診療所 [準備・課題] 歯科診療と診療所がどのようなものかを知り、医療従事者としての心がまえについて理解を深める。(4h)						
2	ライフステージと歯科診療 歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (1) 診査・検査・前処置 [準備・課題] 歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
3	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (2) 小児歯科・歯科矯正 (1, 2の課題の確認も行う) [準備・課題] 歯科診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
4	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (3) 口腔外科 [準備・課題] 歯科診療のながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
5	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (4) 歯科保存 [準備・課題] 歯科保存診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
6	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (5) 歯周治療 [準備・課題] 歯周治療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
7	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (6) 歯科補綴 [準備・課題] 歯科補綴診療の診療内容とながれの概要を復習し、まとめる。(4h)						
8	歯科診療で行うこと ー主な診療の流れー (7) 障害者歯科・高齢者歯科 (3~7の課題の確認も行う) [準備・課題] 障害者歯科および高齢者歯科の診療内容と流れを復習し、まとめる。(4h)						
時間外での学修	講義内容をよく復習するようにしましょう。理解できないことや疑問点があれば質問するようにして下さい。						
受講学生へのメッセージ	歯科医学への入門となるような講義です。この授業を通じて歯科医学の概略をつかむことで、専門科目の勉強が取り組みやすくなるでしょう。 オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。						

小児歯科学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
[教員]：石川 隆義							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	臨床歯科学の一分野である小児歯科学では、成長発達過程にある小児を対象として、胎児期から成人に至るまでの顎・顔面・口腔領域の健康を維持し増進させるために、疾病や異常の予防・治療および小児の歯科健康管理について授業を行う。授業の内容は、将来を担う歯科衛生士として、小児歯科学の意義・目的に即した概論を学び、小児の成長発達に伴う基本的知識、小児歯科における予防処置・診療補助・保健指導の専門的知識を修得できるよう構成している。						
授業方法	講義と小グループでの討議形式を含めた授業展開で進めていく。また子育てサロンでの体験学習も実施し、小児歯科領域の様々な問題解決に向けて、思考する能力育成を重視した授業方法をとる。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児の心身の発育と口腔の成長変化について説明ができる。</li> <li>小児の歯科疾患の病因と予防法について説明ができる。</li> <li>小児（不協力児および障害児を含む）への歯科衛生士としての対応を具体的に説明できる。</li> <li>小児歯科診療の流れと歯科衛生士としての役割を説明ができる。</li> <li>小児への継続した口腔健康管理の目的と方法を説明ができる。</li> </ul>			◎		
	関心・意欲・態度	小児歯科に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	-	-	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で評価を行います。受講態度は学修への取組状況によって評価します。授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 小児歯科』医歯薬出版(3,240円) ISBN:978-4-263-42824-5						
参考書・教材	長坂信夫/他編『新小児歯科学』医歯薬出版 他に必要な資料は授業で配布する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	小児歯科学概論：小児歯科の定義と目的について述べた後、小児歯科診療と歯科衛生士の役割について言及していく。 [準備・課題]学修内容を予習し、小児歯科の歯科診療の中での位置付けについてまとめる。(1h)						
2	小児の心身の成長・発達：発育の評価と生理的年齢について解説し、身体的成長と精神的発達面に言及し、さらに小児の生理的特徴について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、小児の身体的成長と精神的発達についてまとめる。(1h)						
3	小児の顔面頭蓋の発育：小児の顎顔面頭蓋の発育様式と発育の評価法について、生体を直接計測する方法とレントゲンや模型で間接的に計測評価する方法を述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、特に小児の顎顔面頭蓋の発育様式の特徴についてまとめる。(1h)						
4	歯の発育と異常：歯の発育段階について述べ、各発育時期における障害による歯の形成障害について解説する。また、歯の萌出とその異常についても言及する。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯の発育のステージと障害の発生との関連についてまとめる。(1h)						
5	歯列・咬合の発育と異常：乳歯列期と混合歯列期における歯列・咬合の発育の特徴と、その異常を遺伝と環境の両面から解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、咬合発育段階における歯列・咬合の変化についてまとめる。(1h)						
6	小児の歯科疾患：小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について述べるが、特に小児における歯肉炎、歯周炎、歯肉増殖症について詳述する。1-6の課題の確認のため、発表とまとめを行う。 [準備・課題]学修内容を予習し、特に小児に発生する歯肉炎、歯周炎の特徴についてまとめる。(1h)						
7	小児期の特徴と歯科の問題点：小児期を低年齢児、学童期、思春期の3ステージに分け、それぞれの時期での小児の特徴や留意点、特徴的歯科疾患について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、小児の発達時期に応じた歯科の問題点についてまとめる。(1h)						
8	小児歯科診療体系（1）診査・診断：小児の歯科診療とその特徴、小児歯科における診査・診断、さらに保護者教室の意義について解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、一口腔単位として小児の口腔における診査・診断の重要性をまとめる。(1h)						
9	小児歯科診療体系（2）治療について：小児歯科における保存的、口腔外科の治療並びに咬合誘導について解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、特に幼若永久歯の歯内療法についてレポートを課す。(1h)						
10	小児患者の対応法：診療室における小児の態度と行動について臨床心理学的観点から解説し、歯科治療時の実際の対応法について言及していく。 [準備・課題]小児歯科臨床における不協力児の場面に対する介入方法におけるレポートを課す。(1h)						
11	障害児の歯科治療：障害の種類とその全身的・歯科的特徴について述べ、実際の対応について言及する。7-11までの課題についてレポート等の提出に基づいて確認し、発表とまとめを行う。 [準備・課題]学修内容を予習し、障害の種類に応じた口腔の特徴についてまとめる。(1h)						
12	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(1) 予防業務：診察・検査時の業務とう触予防について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診察・検査時の業務とう触予防についてまとめる。(1h)						
13	小児歯科診療における歯科衛生士の役割(2) 診療補助：実際の小児歯科診療時の補助業務について述べる。 [準備・課題]学修内容を予習し、歯科衛生士の小児歯科診療における診療補助業務についてまとめる。(1h)						
14	小児の口腔健康管理と器材の管理：乳幼児期から学童期、思春期に至るまでの口腔健康管理を中心に解説する。 [準備・課題]学修内容を予習し、小児の口腔保健管理についてまとめる。(1h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
15	授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的まとめを行う。学修した内容を項目ごとにレポートにまとめ課題確認をする。 [準備・課題] 全体的な学習内容を総復習し、小児歯科全般についてまとめる。(1h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。
受講学生へのメッセージ	将来、歯科衛生士として小児歯科等の歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともに予習・復習をしっかり行って授業に積極的に出席すること。 オフィスアワーは、G204で毎週木曜日の5時限目16:20～17:30です。

歯科放射線学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
[教員]：海原 康孝							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	歯科医療に必須の放射線画像の成り立ちと症例に基づいた画像診断について学びます。エックス線写真の撮影方法や、安全な利用方法、口腔癌の放射線治療についても学ぶ。						
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とします。教科書だけでなくスライドや配布資料を使うこともあります。						
到達目標	知識・理解	歯科におけるエックス線写真と画像診断、放射線とその性質、それに関連する項目について基本的な知識を理解できる。			◎		
	関心・意欲・態度	エックス線撮影の準備手順や留意点に関する課題に関心を持ち、積極的に考え、努力して学修に取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法		80	-	-	-	80
	筆記試験		-	-	-	20	20
	受講態度						
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項	全授業を3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版(3,024円) ISBN:978-4-263-42828-3						
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配布する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科医療と放射線 (歯科医療におけるエックス線の役割、エックス線の性質と整体への影響、放射線防御について理解する。) [準備・課題] 歯科医療におけるエックス線の果たす役割について復習し、まとめる。(4h)						
2	エックス線画像の形成 (エックス線画像の成り立ち、エックス線と生体物質の相互作用、エックス線フィルム、エックス線センサーについて学ぶ。) [準備・課題] エックス線画像の成り立ちについて復習し、まとめる。(4h)						
3	歯科におけるエックス線検査 (1) (口内法エックス線撮影、パノラマエックス線写真について学ぶ。3～7の課題の確認も行う。) [準備・課題] 歯科治療に最も多く用いるエックス線撮影装置について復習し、まとめる。(4h)						
4	歯科におけるエックス線検査 (2) (頭部エックス線規格撮影、その他の様々な画像検査法について学ぶ。) [準備・課題] 矯正歯科、口腔外科領域で用いる画像検査法について復習し、まとめる。(4h)						
5	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (口内法エックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。3, 4の課題の確認も行う。) [準備・課題] 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)						
6	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 (パノラマエックス線撮影の準備手順と留意点、フィルムの位置づけなどについて学ぶ。) [準備・課題] パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる。(4h)						
7	写真処理と画像保管の実際 (写真処理の方法と手順、写真保管について学ぶ。) [準備・課題] 写真処理と画像保管の実際について復習し、まとめる。(4h)						
8	放射線治療と口腔管理 (口腔癌の放射線治療や放射線治療患者の口腔管理について学ぶ。5～7の課題の確認も行う。) [準備・課題] 放射線治療と口腔管理について復習し、まとめる。(4h)						
時間外での学修	教科書や講義の内容をよく復習し理解を深め、確実に学修しましょう。理解できないことや疑問点があれば質問して下さい。						
受講学生へのメッセージ	予習・復習をしっかりして授業に積極的に出席してください。 オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20～17:50です。						

歯周病予防基礎		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
[教員]：小牧 令二						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	歯を支える組織の病気である歯周病は、う蝕と共に歯科の2大疾患といわれ、歯を失う原因の半分以上を占めています。歯周病の予防と治療の大部分は歯科衛生士の業務範囲にあり、歯科衛生士の役割は歯周病治療において非常に重要です。本教科では、歯周病についての基礎知識と予防・治療法について学び、歯周病予防・治療の理論的根拠を考えられるようになることを目指します。					
授業方法	講義が主体で、毎回、宿題プリントの答え合わせをします。					
到達目標	知識・理解	歯周疾患の罹患状況の概略を説明できる。 歯周組織の構成要素をあげ、その組織図を描ける。 歯周疾患の分類とその特徴を説明できる。 歯周病の原因である直接因子と修飾因子を説明できる。 歯周治療の進め方とその内容の概略を説明できる。 歯周治療の流れに従った歯科衛生士の役割を説明できる。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的に学習に取り組むことができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	3分の1以上の欠席の場合、単位は認めません。単位取得には、筆記試験 6割以上の成績が必要です。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,780円)ISBN:978-4-263-42839-9 『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,456円)ISBN:978-4-7812-0039-2					
参考書・教材	その他 資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論> 日本における歯周病罹患の実態を学ぶ。歯周治療の概要を知る。 [準備・課題]歯の喪失原因と歯の健康についてまとめる。(1h)					
2	<歯周組織の理解> 歯周組織の構造と機能を復習し、組織図が正しく描けるようにする。 歯肉炎と歯周炎の違いを学ぶ。 [準備・課題]歯周組織を覚え、図が描けるようにする。(1h)					
3	<歯周病の分類と原因> 歯肉炎と歯周炎の分類と原因について知る。 局所的原因と全身的原因があることを学ぶ。 [準備・課題]歯肉炎と歯周炎の違いを図示できるようにする。(1h)					
4	<歯周病菌の理解> 歯周病の原因とされている微生物の種類を学ぶ。 [準備・課題]歯周病に関係する微生物の名前を覚える。(1h)					
5	<発症のメカニズム> なぜ、歯周病が起きるのか。微生物と免疫との関係について学ぶ。 [準備・課題]発症のメカニズムについて理解し、まとめる。(1h)					
6	<全身と歯周病との関係> 歯周病が全身に与える影響と全身的原因を理解する。 [準備・課題]全身的原因と歯周医学について項目を覚える。(1h)					
7	<歯周病の臨床症状> 歯周病になるとどのような症状がおきるのか、また、なぜそれが起きるのかを学ぶ。 [準備・課題]歯周病の症状について理解し、まとめる。(1h)					
8	<歯周治療の進め方> 臨床では、歯周治療がどのように進められるか、理解する。 また、歯科衛生士はどのような役割があるかを学ぶ。 [準備・課題]歯周治療の順番を覚える。(1h)					
9	<問診から歯周検査> 歯周治療に必要な歯周検査の種類を知学ぶ。 [準備・課題]検査の項目を覚える。(1h)					
10	<歯周検査の意味> 実習で行なっている歯周検査の意味を理解する。 [準備・課題]それぞれの検査の意味を理解し、まとめる。(1h)					
11	<歯周基本治療(イニシャルプレパレーション)> 歯周治療の基本となる治療である。 どのような目的で、どのような内容を行なうのかを学ぶ。 [準備・課題]歯周基本治療の目的と手順を覚える。(1h)					
12	<再評価> 治療の効果を見るために評価を行なうが、その目的と内容について学ぶ。 [準備・課題]再評価の目的と意義を理解し、まとめる。(1h)					
13	<歯周外科> 歯周外科の種類と手順、使用器具を知る。根分岐部病変への処置法を学ぶ。 [準備・課題]歯周外科の種類と使用器具を覚える。(1h)					
14	<リハビリテーション> 歯周外科後の歯周補綴、矯正、咬合調整の概要について学ぶ。 [準備・課題]リハビリテーションのそれぞれの目的を覚える。(1h)					
15	<メンテナンス> メンテナンスの内容とその必要性を理解する。 [準備・課題]メンテナンスの必要性を説明できるように要点を覚える。(1h)					
時間外での学修	適時プリントを配布します。授業を開いて、しっかりプリントをまとめておくようにしてください。歯周組織の構造や歯周病の原因を理解することが前提となるので、前期で学ぶ、口腔解剖学・病理学・微生物学を事前に復習してください。					
受講学生へのメッセージ	歯周病予防技術法の基礎となる教科です。国家試験においても重要な内容です。教科書を熟読し、プリントを基にまとめておいてください。オフィスアワーは教室で講義終了後です。					

歯周病予防技術法 I		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	実習	45時間		
[教員]：阿尾 敦子・今井 藍子・戸倉 さち子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	歯科予防処置とは、歯や歯肉の疾患を予防するための専門家によって行われる処置をいい、歯周病に対するものと、う蝕に対するものがあります。この教科では歯周病の予防・治療の専門的技術である歯石除去法の技術を修得します。歯周病の概要と原因を知り、歯石除去の術式に使用する器具の基本的取扱いや模型上での歯石除去操作を修得します。						
授業方法	実習科目です。講義で基礎知識を理解した後は、実習中心の授業となります。回を追うごとに手技の訓練を積み重ね、技術を向上させていきます。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科予防処置の概要を知り、歯石除去の目的を理解できる。</li> <li>・歯石除去の使用器具・方法について説明できる。</li> </ul>			◎		
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯石除去の器具を用い、模型上で基本操作が正しくできる。</li> <li>・マネキンを使用し、歯肉縁上歯石の除去操作が正しくできる。</li> <li>・シャープニング法を理解し、シクルタイプスケーラーのシャープニング操作ができる。</li> </ul>			◎		
	関心・意欲・態度	・歯周病予防の技術修得のために、積極的に学修に取り組むことができる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験(筆記試験)		30	-	-	-	30
	定期試験(実技試験)		-	-	50	-	50
	小テスト		10	-	-	-	10
	履修カルテ・受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	-	50	10	100	
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験それぞれ6割の取得が必要です。 欠席・遅刻・身だしなみ・忘れ物等を受講態度として減点します。 1/3以上欠席すると受験資格はありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版(8, 208円) ISBN:978-4-263-42826-9						
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯周病予防の概要：歯科予防処置の中の歯周病予防について、歯周病の概要と原因を理解する。 歯石除去の必要性を理解する。 [準備・課題]歯周病予防の概要を復習する(0.5h)						
2	口腔の構造と付着物・沈着物について：課題の確認。歯や歯周組織の構造や付着物・沈着物を理解する。 また、診療器具・歯石除去器具の取扱いを学ぶ。 [準備・課題]歯周組織・歯の構造、付着物・沈着物について復習する(0.5h)						
3	手用スケーラーについて：課題の確認。手用スケーラーの種類と特徴を理解し、基本操作を実習する [準備・課題]手用スケーラーの基本操作を復習する(0.5~1h)						
4	マネキンの操作法：課題の確認。マネキンの操作法を知り、シクルタイプスケーラーを模型上で操作する [準備・課題]シクルタイプスケーラーの模型上での操作を復習する(0.5~1h)						
5	歯石除去法(1)：課題の確認。上顎前歯部のマネキン実習 [準備・課題]上顎前歯部のスケーリング操作を復習する(0.5~1h)						
6	歯石除去法(2)：課題の確認。下顎前歯部のマネキン実習 [準備・課題]下顎前歯部のスケーリング操作を復習する(0.5~1h)						
7	シャープニング法：課題の確認。シクルタイプスケーラーのシャープニングを実習する [準備・課題]シクルタイプスケーラーをシャープニングし提出する(1h)						
8	歯石除去法(3)：課題の確認。下顎臼歯部のマネキン実習 [準備・課題]下顎臼歯部のスケーリング操作を復習する(1h)						
9	歯石除去法(4)：課題の確認。上顎臼歯部のマネキン実習 [準備・課題]上顎臼歯部のスケーリング操作を復習する(1h)						
10	実技のまとめ：課題の確認。歯周病予防の知識を整理し、スケーリング操作を復習する [準備・課題]課題部位のマネキン上でのスケーリング操作を復習する(1h)						
11	実技チェック：マネキン実習で習得した技術を試験形式で確認する						
12	偶発事故防止：偶発事故防止のための対処法を理解し、相互実習の流れを把握する						
時間外での学修	[準備・課題]の内容を確実に学修し授業に臨んでください。自主トレーニングを通して、確実に技術を身につけることが大切です。疑問点は質問をして解決していきましょう。						
受講学生へのメッセージ	技術を積み重ねて身につけるため、欠席をしないように健康管理を十分行ってください。授業内容の詳細を毎回掲示しますので、忘れずに確認してください。 オフィスアワーは研究室で木曜日の5限目です。						

歯周病予防技術法Ⅱ		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	実習	45時間	
[教員]：今井 藍子・戸倉 さち子・川畠 智子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	歯周疾患の予防・治療のためには、口腔内状況を把握するための情報収集が重要です。そのために、歯周組織診査を実習し、情報をえることを学びます。「歯周病予防技術法Ⅰ」と同様に、専門器具を使用して歯石除去、歯面研磨の知識・技術を修得します。					
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を理解した後、実習で技術を修得します。特に、相互実習で生体への配慮を行いながら技術を向上させていきます。					
到達目標	知識・理解	歯周組織診査の目的や得られる情報を理解し、使用器具の用途や特徴が説明できる 超音波・エアスケーラーの種類や特徴、使用方法を説明できる 歯面研磨の目的や特徴、有効性を説明できる			◎	
	技能	歯周組織診査の項目に合った器具を選択し、操作できる 超音波・エアスケーラー、歯面研磨に合った器具を選択し適切に操作できる 生体への配慮や医療安全を意識して相互実習を実施できる 施術にあたって患者指導が適切におこなえる			◎	
	関心・意欲・態度	医療人としての自己管理をし、主体的に実習に取り組むことができる			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験(筆記・実技)	30	-	45	-	75
	小テスト	5	-	-	-	5
	レポート	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	45	-	45	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験、筆記試験でそれぞれ6割の取得が必要です。欠席は減点とし、1/3以上欠席すると受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,780円) ISBN:978-4-263-42839-9					
参考書・教材	『しっかり測定できる!歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,456円) ISBN:978-4-7812-0039-2 その他参考資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	触診・洗浄・貼薬について：口腔内の状況把握のため触診・洗浄・貼薬の方法を理解し、器具を操作する。					
2	口腔内診査(触診・洗浄・貼薬)：生体への配慮をしながら器具を操作し相互に実習する。 [準備・課題]器具の操作法と薬品の使用法をまとめる(1h)					
3	歯周組織診査①：課題の確認 ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定を理解する。					
4	歯周組織診査②：ポケット測定、歯肉出血度、付着歯肉幅の測定を相互に実習する。 [準備・課題]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)					
5	歯周組織診査③：課題の確認 PMA、歯の動揺度、歯間離開度の測定を理解する。					
6	歯周組織診査④：PMA、歯の動揺度、歯間離開度の測定を相互に実習する。 [準備・課題]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)					
7	歯石除去法①(超音波スケーラー・エアスケーラーの基礎)： 課題の確認 超音波スケーラー・エアスケーラーの原理と特徴を理解し、基本操作を実習する。					
8	歯石除去法②(超音波スケーラー・エアスケーラーによる歯石除去法)： マネキン上で超音波スケーラーを使用してロールプレイ実習をする。					
9	歯石除去法③(超音波スケーラー・エアスケーラーによる歯石除去法)： 超音波スケーラーを使用したの相互に実習する。 [準備・課題]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)					
10	歯面研磨法①：課題の確認 歯面研磨の基礎知識を理解する。 マネキン上で歯面研磨のロールプレイ実習する。					
11	歯面研磨法②：歯面研磨器材を使用したの相互に実習する。 [準備・課題]相互実習を振り返り生体への配慮、反省をまとめる(1h)					
12	実技チェック：マネキン上での機械操作を試験形式で確認する。					
13	結果・まとめ：課題の確認 基本技術の総復習する。					
時間外での学修	相互実習を円滑に行うために、予習・復習をしっかりと行って授業にのぞんでください。実習時間内で技術力が十分でないときには自主的に練習をしてください。					
受講学生へのメッセージ	相互実習はグループで行うので欠席すると迷惑をかけます。欠席をしないように健康管理を十分行ってください。 オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。					

う蝕予防処置法 I		歯科衛生学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
[教員]：阿尾 敦子・飯岡 美幸						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	う蝕予防は各個人が日常生活で取り組んでいるが、う蝕をなくすまでにはいたっていない。そこで、う蝕の病因、プロセスを専門的に捉え、口腔診査、リスク検査を通してフッ化物の応用を中心としたう蝕予防法の基礎知識を理解する。					
授業方法	演習科目です。講義・示説で知識を理解した後、演習や実習を行って知識の整理をします。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>う蝕の成り立ちについて理解し、う蝕予防の考え方と予防方法を理解する。</li> <li>口腔診査を行うための知識を理解し、診査記録をする。</li> <li>う蝕活動性試験の種類、特徴を理解する。</li> <li>フッ化物局所応用法について種類、使用薬剤を理解する。</li> </ul>			◎	
	関心・意欲・態度	う蝕予防処置法の知識を修得するために、積極的に学修に取り組むことができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験	80	-	-	-	80
	小テスト	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	欠席や忘れ物等は受講態度から減点とし、3分の1以上欠席した場合は受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9					
参考書・教材	その他資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	う蝕予防処置とは：専門家によるう蝕予防処置の種類を理解する。 [準備・課題]う蝕予防処置法の特徴を復習する (1h)					
2	口腔診査：課題の確認。口腔診査の知識を理解し、診査記号を記録する。 [準備・課題]口腔診査記号を理解し、記録ができるように復習する (2h)					
3	う蝕予防の基礎：課題の確認。う蝕の病因、発症のプロセスを理解し、う蝕予防法が説明できる。 [準備・課題]う蝕予防の基礎知識を復習する (2h)					
4	う蝕活動性試験法①：課題の確認。各種う蝕活動性試験を行い、結果をまとめる。 [準備・課題]う蝕活動性試験結果を分析し、予後を考える (2h)					
5	う蝕活動性試験法②：課題の確認。各種う蝕活動性試験を行い、結果を分析し予防法を考える。 [準備・課題]う蝕活動性試験結果を分析し、予防法をまとめる (2h)					
6	う蝕予防法の実際：課題の確認。フッ化物によるう蝕予防法を理解する。 フッ化物局所応用法①：フッ化物局所応用法の種類、使用薬剤の知識、作用機序を理解する。 [準備・課題]フッ化物応用法を整理し復習する (2h)					
7	フッ化物局所応用法②：課題の確認。フッ化物溶液の至適量を実習をとおして理解する。 [準備・課題]実習結果からフッ化物応用法の使用薬液量を把握する (2h)					
8	フッ化物局所応用法③：課題の確認。フッ化物の急性中毒量の算出を演習をとおして理解する。 まとめ：う蝕予防処置の知識を整理しまとめる。 [準備・課題]各種フッ化物の急性中毒量の算出法を復習する (2h)					
時間外での学修	[準備・課題]の内容をテキストや配布プリントで復習し、理解を深めるようにしてください。					
受講学生へのメッセージ	個人やグループで演習・実習を行うので、健康管理に気をつけ欠席しないようにしてください。オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。					

歯科保健指導基礎		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
[教員]：川島 智子・戸倉 さち子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	歯科保健指導とは、「個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために行われる専門的な指導」のことをいう。健康の増進をはかるための継続的な歯科保健指導業務を行うために、この授業では、歯科保健指導の目的や意義・必要性を理解することから始める。さらに、歯ブラシや補助清掃用具、歯磨剤の種類や用途の調査・検討、歯垢染色の方法や各種ブラッシング方法を学び、歯科保健指導を行うにあたり必要な基礎知識や技術を身につけることを目的としている。						
授業方法	講義・演習・実習を組み合わせた授業となる。自分自身の口腔衛生習慣を変容させることを目的としている。歯科予防処置関連実習、口腔衛生学、歯科衛生士概論などと関連付けて学習する。						
到達目標	知識・理解	歯科保健指導の定義を説明できる 口腔内の付着物、沈着物を列挙できる 歯垢染色剤の使用法と特徴を説明できる 歯ブラシや補助清掃用具の種類と特徴を説明する 各種ブラッシング方法の特徴を説明できる 歯磨剤（フッ化物配合歯磨剤）について説明できる			◎		
	思考・判断・表現	自分の口腔内を100%磨きあげる方法を工夫する			△		
	技能	歯垢染色剤を用いて自分の口腔内を染色できる 各種ブラッシング方法を実施できる 各種補助清掃用具を操作できる			○		
	関心・意欲・態度	授業への積極的参加と自学自習ができる			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	実技試験		-	-	20	-	20
	課題提出		-	10	-	10	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	履修カルテ		-	-	-	10	10
合計(点)		40	10	20	30	100	
評価の特記事項	受講態度は、課題の提出状況、遅刻・欠席、身だしなみなどが評価されます。試験は実技・筆記共に6割以上を合格とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には試験の受験資格がありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版株式会社(6,048円) ISBN:978-4-263-42838-2						
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科保健指導の定義を説明できる(オリエンテーション 歯科保健指導とは) [準備・課題] 歯科保健指導の定義についてまとめる(1H)						
2	歯ブラシの種類と特徴を説明できる 自分にあった歯ブラシで口腔内を清掃することができる [準備・課題] 普段使用している歯ブラシの形態を調べる 自分の口腔にあった歯ブラシを選択する(2H)						
3	第1・2回で学んだことから、歯科保健指導の定義、歯ブラシの知識について列挙する 毛先を使ったブラッシング法の特徴を説明、実施できる [準備・課題] 各種ブラッシング方法の手技を復習する 自分にあったブラッシング方法を選択する(2H)						
4	毛先を使ったブラッシング法のまとめ 脇腹を使ったブラッシング法の特徴を説明、実施できる [準備・課題] 各種ブラッシング方法の手技を復習する 自分にあったブラッシング方法を選択する(2H)						
5	歯垢染色法について特徴を説明、操作できる 第2回から第4回までに学んだことから、自分にあった口腔清掃方法を選択する [準備・課題] 授業開始前までに、第2回から第4回までに学んだことを復習する(2H) 自分にあった口腔清掃方法を実施しながら、磨き残しの箇所を観察する(2H)						
6	補助清掃用具の知識・技術を説明、操作できる 歯ブラシだけでは除去できないプラークを取り除くための用具の種類と特徴、適応を説明できる 各種補助清掃用具を操作できる [準備・課題] 自分の口腔内で、補助清掃用具(デンタルフロス、タフトブラシ)の操作ができるようにする(2H)						
7	歯磨剤について特徴を説明できる 歯磨剤の特徴や使用感を調べる [準備・課題] 歯磨剤の成分について調査する(2H)						
8	ブラッシング・補助清掃用具の操作を確認する(実技チェック)						
時間外での学修	ここで学ぶことは、日常生活と関わりが深いものです。自分の口腔に興味を持ち、日常的に観察し、口腔清掃を実践することで知識・技術の復習ができます。毎回の復習できているか確認をするため、小テストを実施します。						
受講学生へのメッセージ	演習や実習が中心となるため、個人の積極的な授業への取り組みとグループ間の協力が大切です。欠席はその後の授業に大きく影響するため、体調管理をし欠席をしないように心掛けてください。オフィスアワーは授業終了後に実施します。						

保健指導法 I		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
[教員]：川島 智子・今井 藍子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	個人を対象とした歯科保健指導では、対象者の生活行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるため、専門的な立場からの助言や援助を行う。 この授業では、対象者の生活習慣や考え方、ニーズ、口腔内環境を正確につかむことに重点をおき、問題解決方法を探ることを目的とする。そのため、歯科衛生過程における、歯科衛生アセスメントと歯科衛生診断、書面化を理解し、各種指数の算出方法・評価方法を学ぶ。						
授業方法	講義・演習で知識を修得後に相互実習を実施し、得られた情報を用いて演習・実習を行う。 歯科予防処置関連実習や口腔衛生学と関連づけて学習する。						
到達目標	知識・理解	歯科保健指導の概要と健康の概念について説明できる 歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる 口腔内の観察ポイントを列挙する 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる			◎		
	思考・判断・表現	口腔清掃状態を評価するため、プラークや歯石を数値化できる 収集した情報を整理・分類できる			◎		
	技能	口腔清掃状態を評価できる 歯科保健指導に必要な教育媒体を作製できる			△		
	関心・意欲・態度	医療人としての身だしなみや患者への配慮ができる 医療人としての自己管理ができ、授業への積極的参加と自己学修を行うことができる			△		
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	実技試験		-	10	10	-	20
	課題提出		10	20	-	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
		合計(点)	50	30	10	10	100
評価の特記事項	欠席・遅刻・身だしなみ・忘れ物等を受講態度として減点します。 1/3以上欠席すると受験資格はありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学 第2版』医歯薬出版(6,048円) ISBN:978-4-263-42838-2 『歯科衛生士臨床のためのQuint Study Club 診査関連編1 しっかり測定できる！ 歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,456円) ISBN:978-4-7812-0039-2 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,780円) ISBN:978-4-263-42839-9						
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	健康の概念 歯科保健指導とは(前期の復習) 歯科衛生過程の基本的な考え方と6つの構成要素について学習する [準備・課題] 健康の概念、歯科保健指導とはについて予習しておいてください(1h) 歯科衛生過程について配布されたプリントをまとめておいてください(1h)						
第2回	正常な口腔・歯周組織の構成要素について(前期の復習) 口腔衛生状態を評価するための指数、O' Leary PCR、OHI、OHI-Sについて学ぶ [準備・課題] 各種指数について、評価方法と数値化を復習する(2h)						
第3回	相互実習(チャートマーキングと口腔診査を相互に実習する) [準備・課題] 歯垢染色やチャートマーキング、口腔診査の方法について予習しておく(1h) 相互実習で収集したデータを整理する(1h)						
第4回	PQI、PHPについて学ぶ 第1回から第3回の復習 実際のデータから、口腔清掃状態を評価する 教育媒体作製法(指導用チャート)について学ぶ [準備・課題] 教育媒体作製法(指導用チャート)を作製する(2h)						
第5回	口腔衛生に関連する生活習慣の情報を収集するための質問項目について学ぶ [準備・課題] 問診や医療面接から得た情報と口腔衛生状態について関連づけて問題と原因を明らかにする(2h)						
第6回	相互実習(医療面接、チャートマーキングと口腔診査を相互に実習する) [準備・課題] 医療面接、歯垢染色やチャートマーキング、口腔診査の方法について予習しておく(1h) 相互実習で収集したデータを整理する(1h)						
第7回	実際のデータをもとに業務記録作成法実習 [準備・課題]業務記録を作成する(1h)						
第8回	まとめ(歯科衛生過程、各種口腔衛生評価方法について復習) [準備・課題] 歯科衛生過程、各種口腔衛生評価方法について復習(3h)						
時間外での学修	事前の予習をしっかりとっておいてください。診療補助実習、予防処置関連の実習と関連付けて相互実習のための準備をしてください。 毎回課題に取り組み、指定された日時に提出してください。						
受講学生へのメッセージ	グループ演習や相互実習が中心となります。正確に口腔内の状況を判断できる力を身に付けるようにしてください。基本的な計算能力が必要です。分数や小数点のある数字の計算方法など復習しておいてください。オフィスアワーは授業終了後です。						



発達口腔保健学		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
[教員]：久本 たき子・戸倉 さち子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	本科目は、ライフステージ別の妊産婦期、新生児期・乳児期、幼児期の一般的特徴と口腔の特徴を理解し、対象者に応じた歯科保健指導および食事指導が行えるように、歯科の特徴や問題点を確認し、歯科保健対策を考えていきます。また、妊産婦期から幼児期までの各ライフステージの歯科保健対策における歯科衛生介入について学びます。						
授業方法	講義とグループでの演習形式で行います。						
到達目標	知識・理解	口腔の健康支援ができるように、妊産婦期・新生児期・乳児期・幼児期の特徴と各歯科保健対策について説明できる。			◎		
	思考・判断・表現	課題レポートを行い、その内容について説明できる。			△		
	関心・意欲・態度	医療人として自己の体調管理ができ、提出物を期限内に提出できる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		80	-	-	-	80
	小テスト		5	-	-	-	5
	レポート		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		85	5	-	10	100	
評価の特記事項	欠席は減点し、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位は与えません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(8,208円) ISBN:978-4-263-42826-9 『歯と口の健康百科』医歯薬出版株式会社(3,888円) ISBN:978-4-263-44387-3						
参考書・教材	最新歯科衛生士教本『栄養と代謝』医歯薬出版株式会社 『食品成分表2018』女子栄養大学出版部						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<総論>ライフサイクル論とライフステージの区分および歯科衛生介入について概説する。 母子歯科保健の意義について解説する。 【準備・課題】ライフステージの区分、母子歯科保健の意義について復習する。(3h)						
2	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期①> 妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について解説する。 【準備・課題】妊産婦期の一般的特徴と口腔の特徴について復習する。(3h)						
3	ライフステージにおける歯科衛生介入1 <妊産婦期②> 妊産婦期の栄養と食生活指導について解説する。 【準備・課題】妊産婦期の栄養と食生活指導について復習する。(4h)						
4	1～3回目までの課題について確認する。 ライフステージにおける歯科衛生介入2 <新生児期・乳児期> 新生児期・乳児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について解説する。 【準備・課題】新生児期・乳児期の歯科保健行動、離乳期の食生活指導について復習する。(4h)						
5	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期①> 幼児期の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導について解説する。 【準備・課題】幼児期の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導について復習する。(4h)						
6	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期②> 幼児期の食事指導(1日の栄養摂取と間食摂取)について演習を行う。 【準備・課題】幼児期の食事指導について復習する。(4h)						
7	ライフステージにおける歯科衛生介入3 <幼児期③> 幼児期の歯科保健指導① 寝かせ磨きのポイントを理解し相互実習をする。 【準備・課題】寝かせ磨きのポイントを復習し、自己の改善点を検討しまとめる。(4h)						
8	4～7回目までの課題について確認する。 ライフステージ(妊産婦期～幼児期)における歯科衛生介入について重要な点を解説する。 【準備・課題】ライフステージ(妊産婦期～幼児期)における歯科衛生介入について復習する。(4h)						
時間外での学修	課題レポート：「市販のお菓子と飲料」について文献で調べ、内容をまとめ提出すること。提出時期は、初回の講義で連絡します。提出期限を守りましょう。						
受講学生へのメッセージ	口腔から全身をとらえ対象者に健康づくりを支援していく立場になることを十分に理解して欲しいです。また、演習時はグループ別で取り組むこともあるため、各自が主体的な態度で臨んで欲しいです。オフィスアワーは、研究室(G304:G号館3F)で火曜日の5時限です。授業で不明な点があれば質問に来てください。						

コミュニケーション演習		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
[教員]: 石川 隆義							
[関連する資格・履修制限等]: 特になし							
授業内容	歯科医療において歯科衛生士は、患者やその家族はもちろんの事、歯科医師、歯科技工士、他の医療・保健・福祉分野の様々な職種の方と場面や状況に応じたコミュニケーションをとることが必要となってくる。そこで、本授業では患者やその家族とのコミュニケーション、チーム医療におけるコミュニケーションの基本的知識やその技法等について修得できることを目指す。						
授業方法	歯科衛生士にとって対面コミュニケーションが重要であり、学生相互によるロールプレーによるシミュレーション実習も多く取り入れた授業方法とする。特に患者役等の相手の立場になった時の気づきを重視する。						
到達目標	知識・理解	・患者やその家族をはじめ、歯科医師、歯科技工士、他の医療・保健・福祉分野の様々な職種の方と場面や状況に応じたコミュニケーションをとることの重要性を述べるができる。 ・チーム歯科医療の意義や成功するための条件、実施上の問題点について述べるができる。			◎		
	技能	ロールプレーを用いたシミュレーション実習を行うことにより、コミュニケーション技法について体験的に理解ができる。			○		
	関心・意欲・態度	患者側の立場を理解し、歯科衛生士としての基本的対応が自らできる。			○		
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート		60	-	-	-	60
	発表		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		60	-	20	20	100
評価の特記事項	評価は授業内におけるレポート、発表および学修への取組状況をみた受講態度によって総合的に評価する。全授業の1/3以上を欠席した者は、受験資格無し。						
テキスト	特に無し。						
参考書・教材	毎回授業時に資料を配布する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コミュニケーションとは何か。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]あなた自身の日常の人間関係の取り方についてまとめる。(2h)  以下の表記で各回1コマ毎の記載をしているが、実際の授業は2コマ続きであり以下のような授業内容構成となる。						
2	コミュニケーションとは何か。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]あなた自身の日常の人間関係の取り方についてまとめる。(2h)						
3	2者関係について考えてみよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーを行い、自分の心の動きやコミュニケーションの取り方についてまとめる。(2h)						
4	2者関係について考えてみよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーを行い、自分の心の動きやコミュニケーションの取り方についてまとめる。(2h)						
5	グループ・ダイナミクスについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]グループ・ワークを行い、自分の心の動きやグループ全体の動きの流れについてまとめる。(2h)						
6	グループ・ダイナミクスについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]グループ・ワークを行い、自分の心の動きやグループ全体の動きの流れについてまとめる。(2h)						
7	成人患者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーによる歯科衛生士役、患者役をやった時の気づきについてまとめる。(2h)						
8	成人患者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーによる歯科衛生士役、患者役をやった時の気づきについてまとめる。(2h)						
9	小児患者の保護者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーによる歯科衛生士役、保護者役をやった時の気づきについてまとめる。(2h)						
10	小児患者の保護者とのコミュニケーションについて考えよう。課題確認のため、レポートを提出。 [準備・課題]ロールプレーによる歯科衛生士役、保護者役をやった時の気づきについてまとめる。(2h)						
11	チーム歯科医療について(1)情報収集 [準備・課題]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め、発表の準備をする。(2h)						
12	チーム歯科医療について(1)情報収集 [準備・課題]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め、発表の準備をする。(2h)						
13	チーム歯科医療について(2)発表・討議。11-12の課題確認のため、個人発表を行う。 [準備・課題]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め発表の準備をする。(2h) チーム歯科医療の課題についてグループ毎に発表し、討議を行った事をまとめる。						
14	チーム歯科医療について(2)発表・討議。11-12の課題確認のため、個人発表を行う。 [準備・課題]チーム歯科医療を行う時の課題について文献・資料を集め発表の準備をする。(2h) チーム歯科医療の課題についてグループ毎に発表し、討議を行った事をまとめる。						
15	チーム歯科医療についてのまとめ。13-14の課題確認のため、レポートを完成させ提出を行う。 [準備・課題]チーム歯科医療について多角的・総合的に検討し、レポート作成を行う。(1h)						
時間外での学修	各回の授業(2限続き)の課題に関して図書・WEB等で予習を行い、授業後は配布プリント等を復習し理解を深める事。自分で問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。						

受講学生への メッセージ	日常の人間関係をとっている時の自分の心の動き、対人関係の取り方のパターン、集団の動きの流れなどをよく見詰め、コミュニケーションについて意識して考えておく事。 オフィスアワーは、G204で毎週木曜日5時限目の16：20から17：30です。
-----------------	---

診療補助総論		歯科衛生学科		1年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：関谷 智子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	歯科衛生士業務のひとつである歯科診療の補助について理解し、歯科臨床における安全な医療提供のための環境づくり、感染予防対策について理解を深めていきます。また、歯科衛生士は、歯科臨床の場で診療内容ごとに数多くの歯科材料を取り扱います。そのため、材料の基本的性質を知ることが正しい操作方法の習得に繋がることから、材料の基礎知識についても学んでいきます。					
授業方法	講義科目です。パワーポイント、テキスト、配布プリントを活用します。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士がおこなう歯科診療補助について説明できる。 歯科医療における感染予防対策について理解し、その方法の基本的知識を修得できる。 医療廃棄物の区分を知り、歯科医院からでる廃棄物の廃棄方法を選択できる。 歯科診療室で使用される歯科材料の基本的性質や素材について理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	感染予防対策の各種方法を感染リスクと結びつけ、安全で信頼される歯科医療提供を考えることができる。			△	
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学習態度で取り組むことができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業内で実施する復習テストです。受講態度は授業の取り組み、学習記録の内容、提出状況から総合的に判断します。 欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生には定期試験の受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,480円) ISBN:978-4-263-42840-5 『歯科医療における院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト』医歯薬出版(4,104円) ISBN:978-4-263-44243-2 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,780円) ISBN:978-4-263-42851-1					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科診療補助と歯科衛生士の役割(受講ガイダンス、診療の補助についてなど) [準備・課題] 歯科診療補助業務の歯科衛生士法における法的位置づけについてまとめる。(2~3h)					
2	歯科診療室の基礎知識、医療安全について(歯科診療室の環境や設備について、歯科診療室でおこなわれている医療安全についてなど) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、医療安全について考える。(3~4h)					
3	感染予防対策(1~2の課題の確認、感染を成立させる要因についてなど) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、感染予防の必要性についてまとめる。(5~6h)					
4	歯科医療における感染予防対策(標準予防策、滅菌・消毒・洗浄の定義など) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、標準予防策の具体的内容についてまとめる。(4~5h)					
5	感染リスクとその対策、各種滅菌・消毒法の分類と種類(リスクアセスメントに基づく感染症対策の実例など) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、感染リスクとその対策についてまとめる。(4~5h)					
6	各種滅菌・消毒法の特徴と注意点(各種滅菌・消毒法をおこなう際の注意点についてなど) [準備・課題] 学んだ内容の復習。熱、温湯、熱湯による消毒についてまとめる。(3~4h)					
7	薬液消毒について(3~6の課題の確認、消毒剤有効活用のための留意点、薬液消毒の方法についてなど) [準備・課題] 学んだ内容を復習、消毒剤の希釈と保管方法についてまとめる。(5~6h)					
8	各種消毒剤の種類と特徴(薬液消毒に使用される消毒剤の種類や用途とその区分についてなど) [準備・課題] 消毒剤の抗微生物スペクトルを基に、消毒剤の選び方をまとめる。(4~6h)					
9	医療従事者の感染防御について(1)手指消毒(手指消毒の方法とその注意点、使用される消毒剤についてなど) [準備・課題] 手指消毒の手順を正確に覚える。手指消毒に用いられる消毒剤についてまとめる。(4~5h)					
10	医療従事者の感染防御について(2)(感染防護具としてのマスク・グローブの種類や使用上の注意点など) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、医療従事者の感染防御の実際についてまとめる。(4~5h)					
11	使用済み器具の感染予防対策の流れ(7~10の課題の確認、使用済み器材処理の各ステップごとの内容や注意点についてなど) [準備・課題] ハイリスク患者の使用済み器材の取り扱いについてまとめる。(5~6h)					
12	診療室から出る廃棄物の区分と処理方法(感染性廃棄物の種類や分類についてなど) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、医療廃棄物の区分とその分別方法についてまとめる。(3~4h)					
13	歯科材料の基礎知識(1) 歯科材料の分類と所要性質(歯科材料としての必要条件と機械的性質・物理的性質についてなど) [準備・課題] 歯科材料の基本的性質についてまとめ、性質に出てくる用語を理解する。(5~6h)					
14	歯科材料の基礎知識(2) 歯科診療の流れと歯科材料(歯科材料の化学的性質や素材について。う蝕の分類に基づく診療のステップと使用する歯科材料についてなど) [準備・課題] 歯科材料の素材について理解を深める。(5~6h)					
15	歯科材料：印象材(13~14の課題の確認、印象材の種類・用途・特徴についてなど) [準備・課題] 印象材を、各特徴別に分類しまとめる。(4~5h)					
時間外での学修	講義内容は、概ね『歯科診療補助論 第2版』のテキストに則っているので、予習して受講するようにして下さい。また、課題の確認は復習テストを実施します。授業があったその日にテキストや配布されたプリント等で課題をおこない、理解を深めるようにして下さい。					

受講学生への  
メッセージ

臨床において倫理に則った的確な判断や行動がとれることを目標に、常に実践を意識して受講してください。オフィスアワーは授業終了後、講義をした教室で12:15～12:50です。

診療補助基礎 I		歯科衛生学科		1年前期			
		1単位	必修	実習	45時間		
[教員]： 関谷 智子・三角 洋美							
[関連する資格・履修制限等]： 特になし							
授業内容	歯科衛生士として歯科診療の補助・介助を行うにあたり、診療が安全に行われるための環境整備や、器械・器具のメンテナンスについて学びます。また、現在の歯科医療において、共同動作は診療を効率的に行うために必要不可欠なものです。この授業では、共同動作について学生同士が相互に患者・補助者・術者を体験することによって、それぞれの立場を理解するとともに、共同動作に必要な基本的知識の理解や医療事故・感染対策についても考え、多岐にわたる診療業務の知識と手技を修得します。						
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明した後、デモンストレーションをおこなってから技術の修得を行います。						
到達目標	知識・理解	診療室で使用される歯科用ユニットの構造を知り、その管理ができる。 標準予防策を理解し、感染予防を考えた行動ができる。 歯科衛生材料の種類、用途とその作製方法を述べるができる。 共同動作の概念、バキュームについて理解することができる。			◎		
	技能	歯科衛生材料の作製ができる。 手指消毒、ユニット消毒など感染予防対策の実践ができる。 水平位診療における共同動作のポジショニング、バキューム操作ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	歯科衛生士の歯科診療補助を正しく理解し、常に実践と結びつけた積極的学習態度で取り組むことができる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	実技試験		-	-	40	-	40
	製作物		-	-	5	-	5
	レポート		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		45	-	45	10	100	
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業時間内でおこなう復習テストです。実技試験は定期試験と授業時間内でおこなう実技試験です。受講態度は授業に対する取り組み、身だしなみ、実習記録の提出状況などから総合的に判断します。 ※筆記試験、実技試験はそれぞれ6割の取得が必要です。欠席は減点とし、授業回数1/3以上欠席した学生には定期試験の受験資格はありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,450円) ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』医歯薬出版(3,456円) ISBN:978-4-263-42850-4						
参考書・教材	『歯科医療における 院内感染予防対策マニュアル&研修テキスト』医歯薬出版(4,101円) ISBN:978-4-263-44243-2						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科用ユニットの構造と各部の名称(受講ガイダンス、歯科用ユニットの構造と各部の名称など) [準備・課題] 歯科用ユニットの各部の名称を正確に覚える。(1h)						
2	歯科用ユニットの操作方法、歯科衛生材料(1)各種綿球作製(歯科用ユニットの操作法を学ぶ。歯科衛生材料の種類や使用目的、綿球の作製方法など) [準備・課題] 学んだ内容の復習。使用目的別綿球の作製練習。(1h)						
3	手指消毒 マスク・グローブの着用(1~2の課題の確認、衛生的手指消毒について、手指の汚れの部位確認、手洗いミスの起こりやすい部位の確認など) [準備・課題] 手洗いミスの起こりやすい部位についての観察レポートを完成させる。手指消毒に使用される消毒剤についてまとめる。(2h)						
4	器材別滅菌・消毒法(実習時のユニットやワゴンの消毒法、器械を使った滅菌消毒法や滅菌済み器具の取り扱い法についてなど) [準備・課題] 滅菌器の特徴や使用上の注意点、必要器材についてまとめる。ユニットの消毒手順と消毒時の注意点をまとめ実践できるようにする。(1h)						
5	相互実習の前準備と後片付け 患者誘導(相互実習を行う際の、実習前準備と後片付けの手順と、実習時の動線についてなど) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、手順をまとめ実践できるようにする。(1h)						
6	手指消毒・ユニット消毒試験、歯科衛生材料(2)小折ガーゼ作製(手指消毒・ユニット消毒が確実に習得できているか確認する。小折ガーゼの作製方法についてなど) [準備・課題] 手指消毒・ユニット消毒の手順と注意点を確認する。小折ガーゼの作製方法を復習し、その作製をおこなう。(2h)						
7	バキュームテクニックの基本(1) マネキン実習(3~5の課題の確認、共同動作の基本、バキュームについて、バキューム操作の基本や挿入位置、手順についてなど) [準備・課題] 共同動作の概念についてまとめる。バキュームの挿入目的や挿入禁忌部位などを復習し、バキューム挿入基本位置への挿入手順を模型上で練習する。(2~3h)						
8	バキュームテクニックの基本(2) 相互実習(相互実習の意義について。学生相互によるバキューム挿入位置の確認、挿入手順についてなど) [準備・課題] 事前に相互実習前準備・後片付けについてその要領を確認しておく。相互実習におけるバキューム操作の手順・要領、生体に対する配慮についてまとめる。(1h)						
9	部位別バキュームテクニック(1) マネキン実習(7~8の課題の確認、操作部位別バキュームの挿入位置や操作手順、使用器械についてなど) [準備・課題] 操作部位別バキューム挿入位置や挿入手順をまとめ、模型上で確認する。(2~3h)						
10	部位別バキュームテクニック(2) 相互実習(学生相互での操作部位別バキュームの挿入位置や操作手順についてなど) [準備・課題] 相互実習における操作部位別バキューム挿入位置や挿入手順と注意点、反省点をまとめる。(1h)						
11	歯科用ユニットのメンテナンス(使用しているユニットのメンテナンス法についてなど) [準備・課題] ユニット各部のメンテナンス法を、メンテナンス時期ごとに分けまとめる。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	<p>バキュームテクニック復習、歯科衛生材料の再作製（9～10の課題の確認、バキューム挿入位置の確認やスリーウェイシリンジの使い方の復習、歯科衛生材料作製のチェックポイントを確認しながら再作製する）</p> <p>[準備・課題]バキューム挿入の基本位置、挿入手順を確認する。歯科衛生材料の作製については、形、大きさ硬さなど、使用目的に合ったものが作製できるよう練習する。(2～3h)</p>
時間外での学修	<p>各回実習ごとの目標を事前に掲示します。目標が達成できるよう予習復習は怠らないようにします。また、授業時間内だけでの実技の習得は難しいため、授業時間外に練習を重ねて確実に身につけるようにしましょう。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>後半の相互実習に向けて、実習内容を積み重ねていきます。欠席はしないよう健康管理には十分注意してください。毎回の実習が充実したものとなるよう積極的に取り組んでください。</p> <p>オフィスアワーは授業終了後、実習を行った教室で16：15～17：00です。</p>

診療補助基礎Ⅱ		歯科衛生学科		1年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
[教員]：関谷 智子・三角 洋美・戸倉 さち子							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	歯科診療では、数多くの歯科材料を取り扱います。その材料を適切な状態に保ち治療に役立つようにするためには、材料の性質を理解し、材料の取り扱いに必要な器械、器具の正確な知識と熟練した手技が必要です。主にこの授業では、学生相互に歯型を採り模型を作製する中で、使用する材料や器具の取り扱いを体得します。また、術者・患者を体験することで、生体に対する配慮についても学びます。						
授業方法	実習科目です。基礎知識や実習要領を説明した後、デモンストレーションをおこなってから技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	印象材の種類、分類、用途、特徴について説明できる。 模型材料としての石膏の種類用途、取り扱いについて説明できる。 各種材料を使用目的に応じて選択することができる。 環境条件に適した材料の取り扱いを考慮することができる。 生体への配慮や言葉かけ、偶発事故への対応について考えることができる。			◎		
	技能	印象材、石膏を使って石膏模型を作製することができる。 スタディモデルを完成することができる。 取り扱う材料に適した器材を準備し、その材料を作り上げることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	医療人としての身だしなみや自己管理ができ、医療現場にいることを意識した態度で授業に取り組むことができる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	実技試験		-	-	30	-	30
	製作物		-	-	15	-	15
	レポート		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		45	-	45	10	100	
評価の特記事項	筆記試験は定期試験と授業時間内でおこなう復習テストです。実技試験は定期試験と授業時間内でおこなう実技試験です。受講態度は授業に対する取り組み、身だしなみ、実習記録の提出状況などから総合的に判断します。※筆記試験、実技試験はそれぞれ6割の取得が必要です。欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生は定期試験の受験資格はありません。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,480円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,780円)ISBN:978-4-263-42851-1						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	アルジネート印象材の取り扱い(1)アルジネート印象材の練和(受講ガイダンス、アルジネート印象材の練和操作、トレーの盛り上げなど) [準備・課題]アルジネート印象材の特徴をまとめる。アルジネート印象材の練和練習を行う。 テキストを参考に、配布された印象採得手順プリントの空欄を埋める。(2~3h)						
2	アルジネート印象材の取り扱い(2)模型上での印象採得(アルジネート印象材を使って、顎模型にて印象採得をおこなう) [準備・課題]上下顎の印象採得の手順・注意点をまとめ、顎模型上にて印象採得の練習を行う。 テキストを参考に、配布された石膏模型作製手順プリントの空欄を埋める。(2~3h)						
3	石膏模型作製(マネキン上にて上下顎の印象採得をおこない、印象面に石膏を注入して模型を作製する) [準備・課題]石膏の取り扱い手順についてまとめる。(1h)						
4	スタディモデル作製(1)下顎模型作製(1~2の課題の確認、相互に下顎の印象採得をおこない下顎石膏模型を作製する) [準備・課題]相互実習での下顎印象採得から石膏模型の作製手順と実習の反省をまとめる。(2~3h)						
5	スタディモデル作製(2)上顎模型作製(3の課題の確認、相互に上顎の印象採得をおこない、上顎石膏模型を作製する) [準備・課題]相互実習での上顎印象採得から石膏模型の作製手順と、実習の反省をまとめる。(2h)						
6	スタディモデル作製(3)上下顎模型作製(相互に上下顎の印象採得をおこない、石膏模型を作製する) [準備・課題]相互実習での印象採得から石膏模型の作製手順と、実習の反省をまとめる。(1h)						
7	寒天印象材とアルジネート印象材による連合印象(連合印象1回法を実習する) [準備・課題]テキストを参考に、配布された歯科材料：寒天印象プリントの空欄を埋める。連合印象1回法についてまとめる。(1~2h)						
8	石膏・寒天・ゴム質印象材・その他の印象材について、材料の取り扱い(石膏、寒天とゴム質印象材の種類や特徴、取り扱い器材についてなど) [準備・課題]配布された歯科材料：石膏、ゴム質印象材・その他の印象材のプリントの空欄を埋める(2h)						
9	石膏模型余剰石膏削除 印象材練和試験(余剰石膏削除に使用する器械の取り扱い、余剰石膏の削除法についてなど) [準備・課題]アルジネート印象材の練和手技を磨く。余剰石膏削除時の注意点についてまとめる。(1~2h)						
10	ゴム質印象材による連合印象(8~9の石膏、余剰石膏削除についての確認、ゴム質印象材による連合印象2回法の模型実習をおこなう) [準備・課題]ゴム質印象材を使用した連合印象2回法の手順と使用される器材についてまとめる。(2h)						
11	石膏模型台付け。歯科用ユニットのメンテナンス(8の寒天・ゴム質・その他の印象材について課題の確認、これまで作製してきた石膏模型に台を付ける。相互実習で使用したユニットのメンテナンスをおこなう) [準備・課題]台付けの手順と注意点についてまとめる。(2h)						
12	スタディモデル仕上げ 実技のまとめ(台付けした石膏模型の最終仕上げをおこなう。取り扱った材料の実技再指導をおこなうなど) [準備・課題]スタディモデルの最終仕上げとラベリングをおこなう。実技再指導で指摘された点について考察し、改善できるように練習する。(2h)						
時間外での学修	各実習ごとの目標を事前に掲示します。目標が達成できるよう予習復習は怠らないようにしてください。また、授業時間内だけの技術の習得は難しいため、積極的に時間外に練習するようにしましょう。						



受講学生への  
メッセージ

歯科材料の物理的・化学的特性を理解したうえで歯科材料を取り扱うことができるよう、知識と技術をバランスよく修得することが大切です。相互実習においては、生体に対する配慮に十分心掛けてください。オフィスアワーは、授業終了後授業を行った教室で16:15～17:00です。